

5. 都市ブランド・アプローチ 8) 街への愛着=居住推奨の理由 ① 4市民比較

現住地への居住推奨理由（都市要素）をみると、町田市民を含む4つの市民の間で顕著な差異がみられる。

- 近い友人に現住地（市）に住むことを推奨する理由（都市要素）をみると、町田市民や比較対象とする他の3つの市民のそれぞれで推奨理由やその順位が異なる。
- それぞれの市民の居住推奨者の25%以上が挙げている理由（都市要素）を下記に整理する。

町田市： およそ5割の人が「東京都心へのアクセス性」「自然環境」、他に25%以上の人「買い物利便性」「住宅の価格」を挙げている。

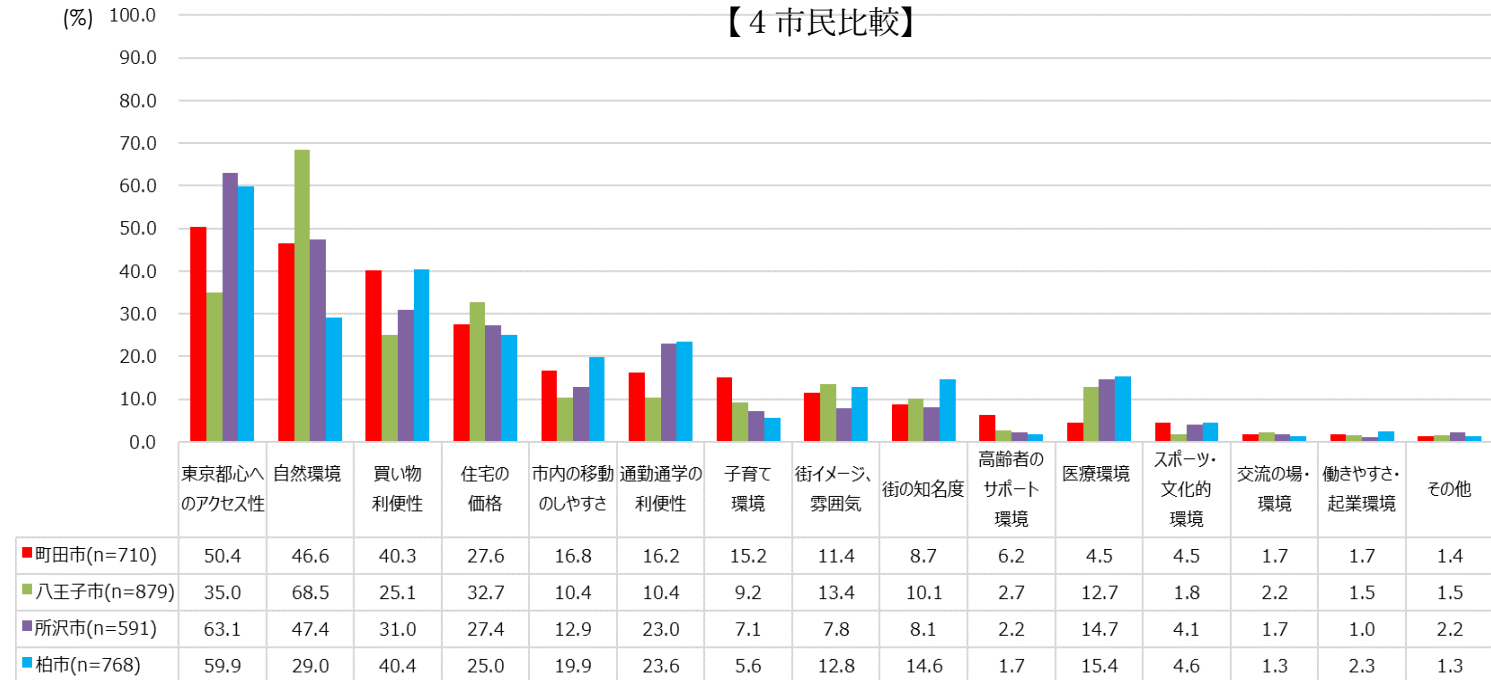
八王子市： およそ7割の人が「自然環境」、他に25%以上の人「東京都心へのアクセス性」「住宅の価格」「買い物利便性」を挙げている。

所沢市： およそ6割の人が「東京都市へのアクセス性」、およそ5割の人が「自然環境」、他に25%以上の人「買い物利便性」「住宅の価格」を挙げている。

柏市： およそ6割の人が「東京都心へのアクセス性」、他に25%以上の人「買い物利便性」「自然環境」「住宅の価格」を挙げている。

- 推奨理由（都市要素）のうち、特に「自然環境」「東京都心へのアクセス性」「買い物利便性」「通勤通学の利便性」「医療環境」については、4つの市民の間で顕著な差異がみられる。

Q13 あなたが、近い友人に〇〇市に住むことを薦める理由は何ですか。（3つまで）
※〇〇市：町田市、八王子市、所沢市、柏市



※ 上図では、町田市民の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。

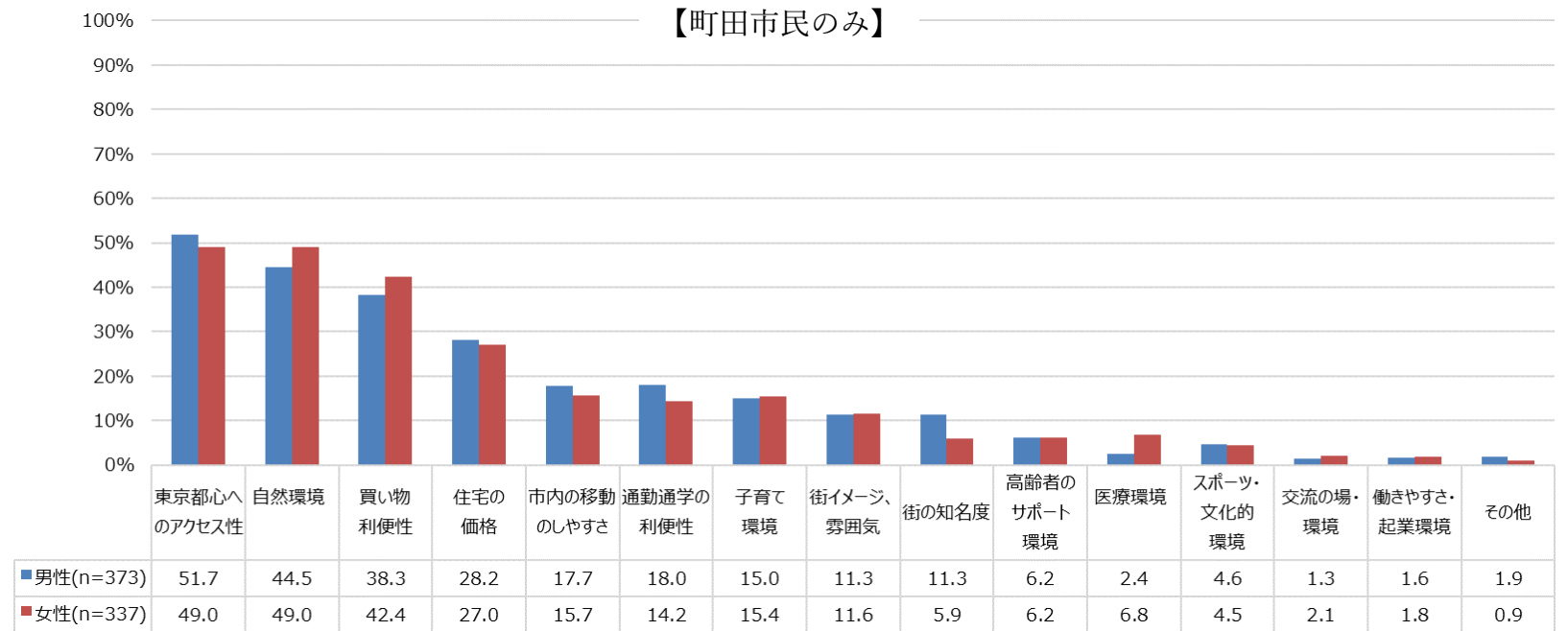


5. 都市ブランド・アプローチ 8) 街への愛着＝居住推奨の理由 ②町田市民のみ・属性分析 (性別)

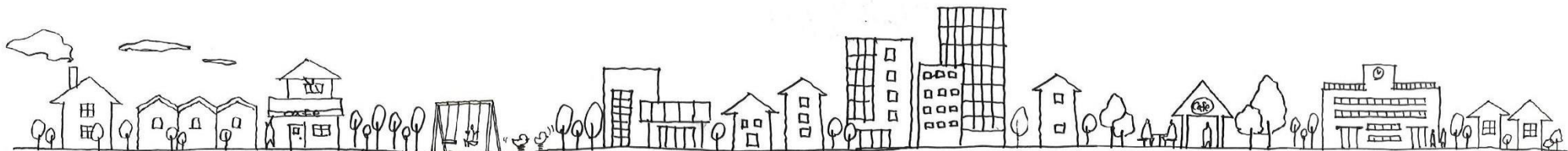
町田市民における現居住地への居住推奨理由（都市要素）をみると、顕著な性差はみられない。

- 町田市民が近い友人に町田市に居住を推奨する理由（都市要素）について性別でみると、男性が女性よりも「街の知名度」を推奨理由として挙げているものの、概ね推奨理由に顕著な性差はみられない。

Q13 あなたが、近い友人に町田市に住むことを薦める理由は何ですか。（3つまで）



※ 上図では、町田市民の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。

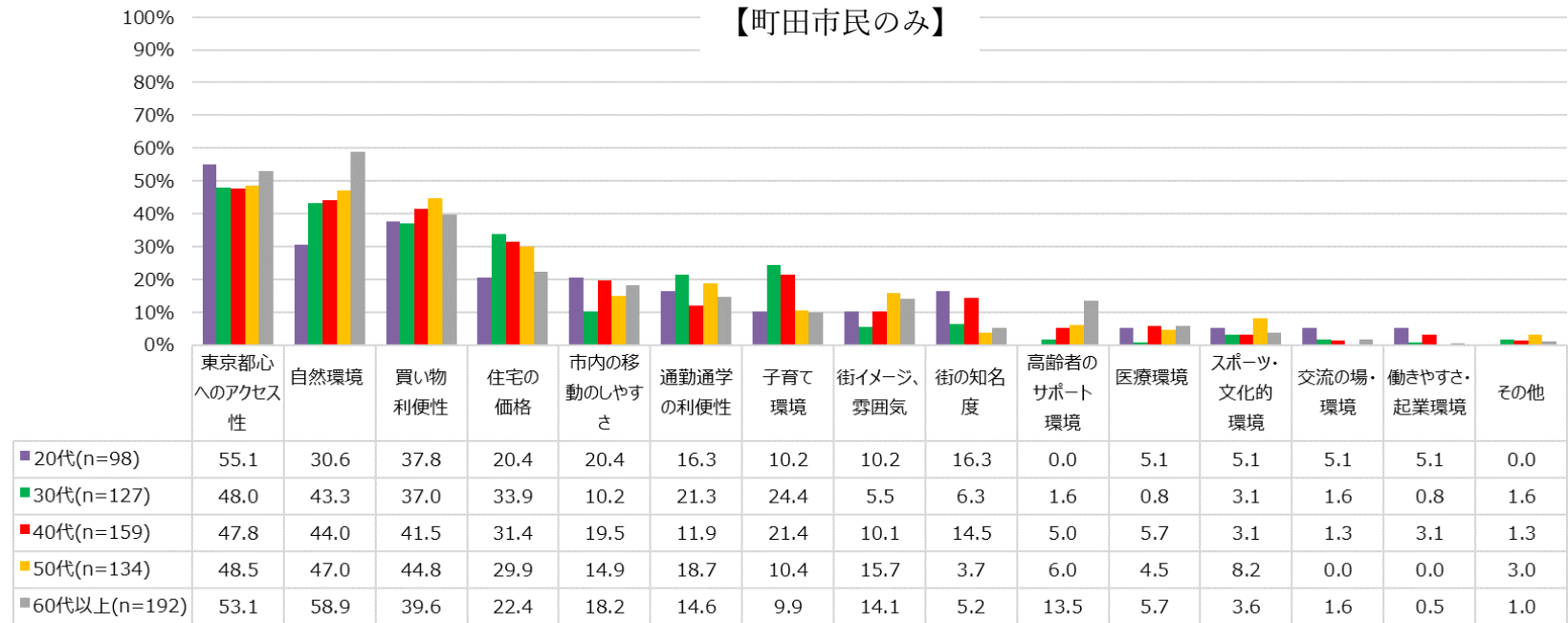


5. 都市ブランド・アプローチ 8) 街への愛着＝居住推奨の理由 ②町田市民のみ・属性分析（年代別）

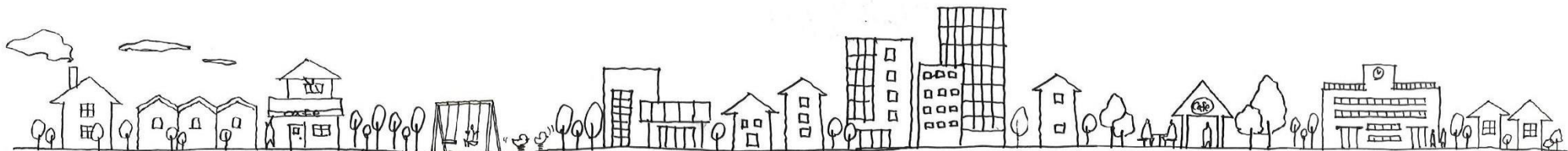
町田市民における現居住地への居住の推奨理由（都市要素）をみると、「自然環境」などいくつかの面で年代による顕著な差異がみられる。

- 町田市民が近い友人に町田市に居住を推奨する理由（都市要素）における年代による差異に着目すると、「自然環境」「子育て環境」「住宅の価格」「高齢者のサポート環境」「市内の移動のしやすさ」「街の知名度」において、顕著な年代差がみられる。
- このうち、「自然環境」および「高齢者のサポート環境」については、年代の高い人ほど居住の推奨理由として挙げている。
- 「子育て環境」については、子育てステージにあると思われる30～40代が他の年代よりも推奨理由として挙げている。
- 「住宅価格」については、住宅一次取得層もしくは住み替え層と思われる30～50代のおよそ3割が推奨理由として挙げている。
- なお、「東京都心へのアクセス性」についてはいずれの年代もおよそ5割が推奨理由として挙げている。ただし、20代と60代以上は30～50代よりも推奨する人の割合が高い。

Q13 あなたが、近い友人に町田市に住むことを薦める理由は何ですか。（3つまで）



※ 上図では、町田市民の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。

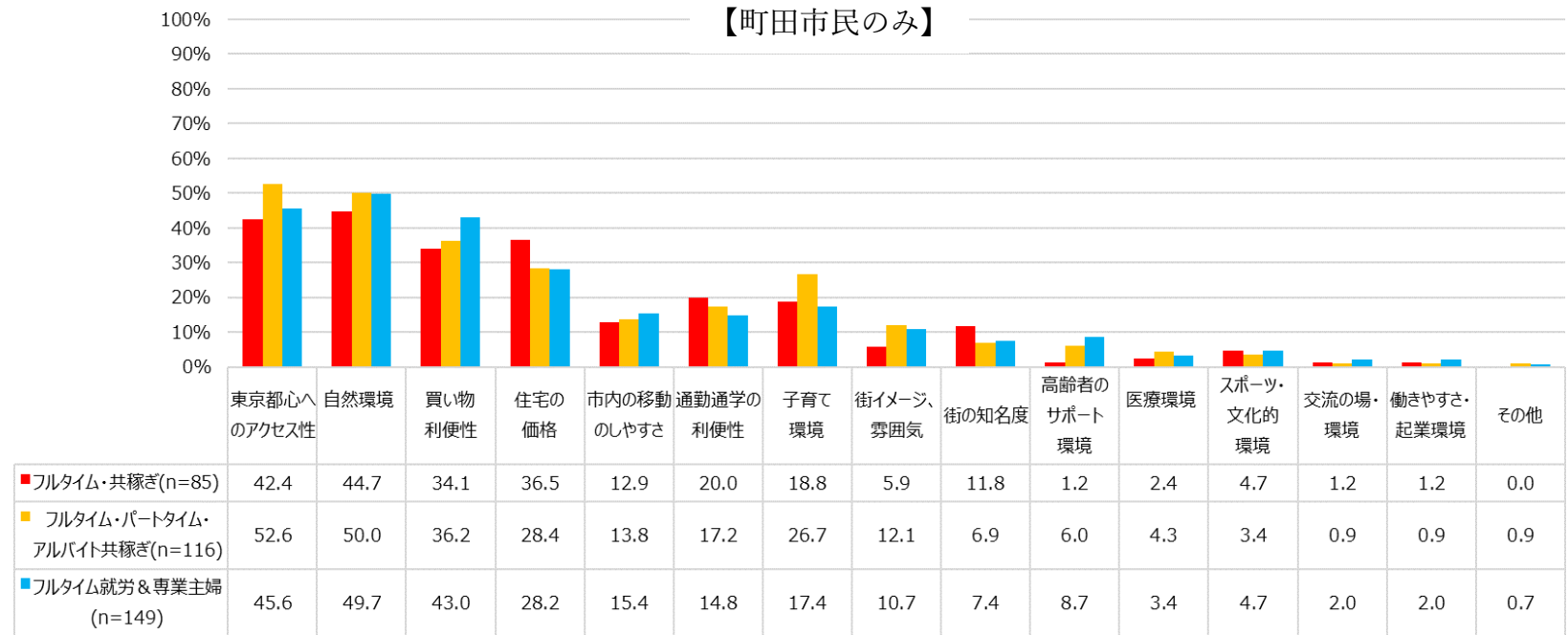


5. 都市ブランド・アプローチ 8) 街への愛着=居住推奨の理由 ②町田市民のみ・属性分析 (夫婦就労状況別)

町田市民における現住地への居住の推奨理由 (都市要素) についてみると、「東京都心へのアクセス性」「子育て環境」「子育て環境」等において家庭の就労状況による差異がみられる。

- 町田市民が近い友人に町田市に居住を推奨する理由 (都市要素) について家庭の就労状況 (共稼ぎ世帯または専業主婦世帯) 別にみると、「東京都心へのアクセス性」をはじめ、「子育て環境」「買い物利便性」「住宅の価格」などで差異がみられる。
- 「東京都心へのアクセス性」および「子育て環境」については、「フルタイム&パート・アルバイトの共稼ぎ」が、「フルタイム・共稼ぎ」や「フルタイム就労&専業主婦」よりも推奨理由として挙げている。
- 「買い物利便性」については、「フルタイム就労&専業主婦」が共稼ぎ世帯よりも推奨理由として挙げている。
- 反対に、「住宅の価格」については、「フルタイム・共稼ぎ」のおよそ4割がこれを推奨理由として挙げており、「フルタイム&パート・アルバイトの共稼ぎ」および「フルタイム就労&専業主婦」よりも高い割合を示している。

Q13 あなたが、近い友人に町田市に住むことを薦める理由は何ですか。(3つまで)

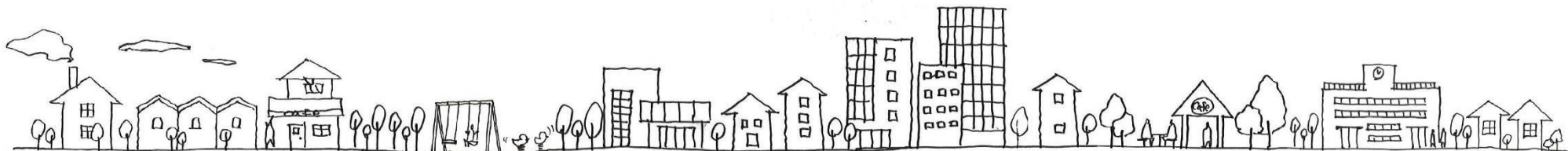
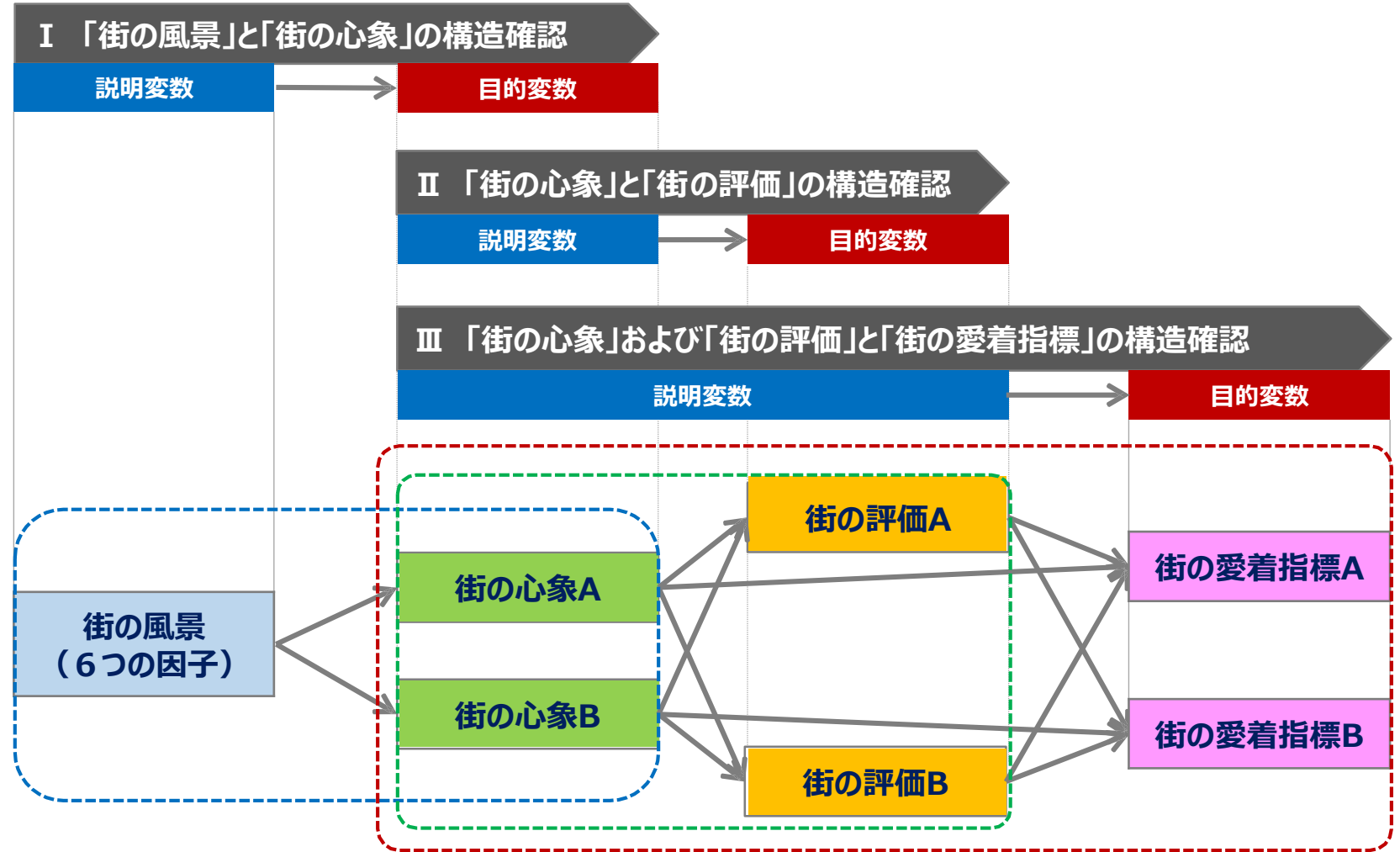
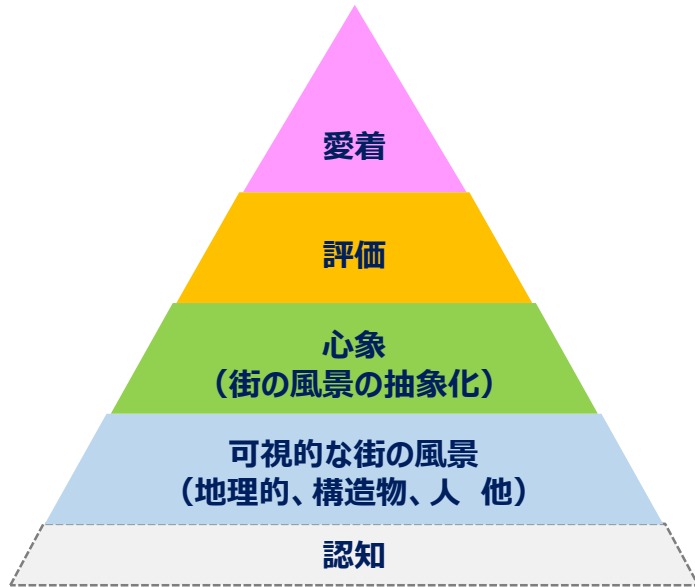


※ 上図では、町田市民の割合にもとづいて降順 (数値の大きい順) で表記している。



5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ①モデルの構造

- 先述した都市ブランドの構造仮説にもとづいて、統計手法を援用して整理したい。
- 具体的には、仮説に従って段階的な構造を明確にするために、古典的なパス解析といわれる重層的な重回帰モデルを用いる。



5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ②町田市民全体

I 「街の風景」と「街の心象」の構造確認



- : 標準化係数ベータ: 0.5以上
- : 標準化係数ベータ: 0.3~0.5未満
- : 標準化係数ベータ: 0.15~0.3未満



【町田市民のみ(n=996)】

モデルの要約

方法	目的変数	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	Durbin-Watson
強制投入法	ワクワク・新しい・元気要素	.778 ^a	0.605	0.603	0.545	1.945

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	450.236	6	75.039	252.937	.000 ^b
残差	293.409	989	0.297		
合計	743.645	995			

係数

説明変数	非標準化係数 B	標準誤差	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	共線性の統計量 許容度	VIF
(定数)	0.056	0.020		2.815	0.005		
企業集積等街のシンボリック要素	0.552	0.019	0.601	29.614	0.000	0.968	1.033
街と暮らしの環境要素	0.232	0.020	0.236	11.711	0.000	0.983	1.017
スポーツ・文化的要素	0.278	0.023	0.250	12.331	0.000	0.968	1.033
歴史・伝統・観光名所	0.061	0.027	0.046	2.244	0.025	0.940	1.064
グルメ・買い物	0.306	0.020	0.309	15.194	0.000	0.962	1.039
交通アクセス要素	0.094	0.022	0.088	4.344	0.000	0.977	1.024

共線性の診断

モデル (次元)	固有値	条件指数	分散プロパティ (定数)	企業集積等街のシンボリック要素	街と暮らしの環境要素	スポーツ・文化的要素	歴史・伝統・観光名所	グルメ・買い物	交通アクセス要素
7	0.522	1.769	0.73	0.00	0.03	0.12	0.34	0.26	0.09

※「条件指数」からみて説明変数間の相関関係はない (=多重共線性はない=説明変数の独立性) と考えられる。

5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ②町田市民全体

I 「街の風景」と「街の心象」の構造確認

説明変数

街の風景

企業集積等街のシンボリック要素

街と暮らしの環境要素

スポーツ・文化的要素

歴史・伝統・観光名所

グルメ・買い物

交通アクセス要素

街の心象B

「安心・穏やか・
温かい要素」

- : 標準化係数ベータ : 0.5以上
- : 標準化係数ベータ : 0.3~0.5未満
- : 標準化係数ベータ : 0.15~0.3未満

【町田市民のみ(n=996)】

モデルの要約

方法	目的変数	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	Durbin-Watson
強制投入法	安心・穏やか・温かい要素	.693 ^a	0.480	0.477	0.63243059	2.014

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	365.137	6	60.856	152.152	.000 ^b
残差	395.569	989	0.400		
合計	760.706	995			

係数

説明変数	非標準化係数 B	標準誤差	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	共線性の統計量 許容度	VIF
(定数)	-0.055	0.023		-2.377	0.018		
企業集積等街のシンボリック要素	0.008	0.022	0.009	0.390	0.696	0.968	1.033
街と暮らしの環境要素	0.595	0.023	0.598	25.833	0.000	0.983	1.017
スポーツ・文化的要素	0.191	0.026	0.170	7.315	0.000	0.968	1.033
歴史・伝統・観光名所	0.182	0.031	0.137	5.783	0.000	0.940	1.064
グルメ・買い物	0.062	0.023	0.062	2.652	0.008	0.962	1.039
交通アクセス要素	0.188	0.025	0.175	7.526	0.000	0.977	1.024

共線性の診断

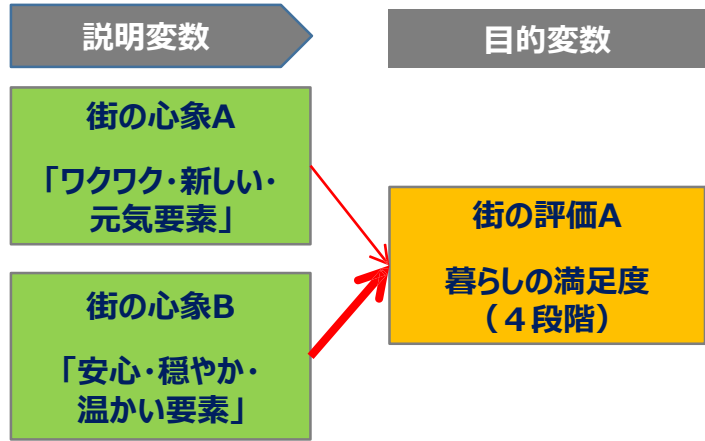
モデル (次元)	固有値	条件指数	分散プロパティ (定数)	企業集積等街のシンボリック要素	街と暮らしの環境要素	スポーツ・文化的要素	歴史・伝統・観光名所	グルメ・買い物	交通アクセス要素
7	0.522	1.769	0.73	0.00	0.03	0.12	0.34	0.26	0.09

※「条件指数」からみて説明変数間の相関関係はない (=多重共線性はない=説明変数の独立性) と考えられる。



5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ②町田市民全体

II 「街の心象」と「街の評価」の構造確認



- : 標準化係数ベータ: 0.5以上
- : 標準化係数ベータ: 0.3~0.5未満
- : 標準化係数ベータ: 0.15~0.3未満

【町田市民のみ(n=996)】

モデルの要約

方法	目的変数	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	Durbin-Watson
強制投入法	暮らしの満足度	.670 ^a	0.449	0.448	0.497	1.963

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	200.115	2	100.057	404.815	.000 ^b
残差	245.438	993	0.247		
合計	445.553	995			

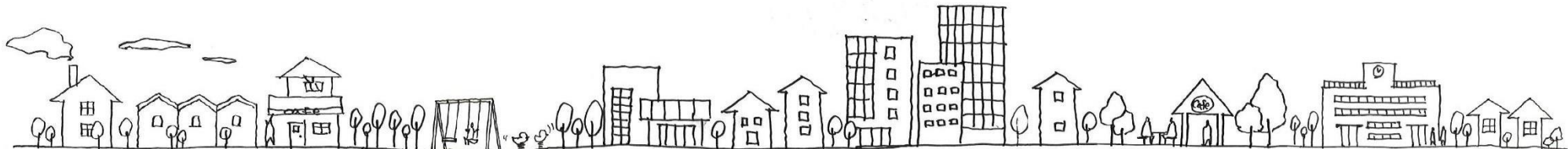
係数

説明変数	非標準化係数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	共線性の統計量 許容度	VIF
	B	標準誤差					
(定数)	2.906	0.016		183.626	0.000		
ワクワク・新しい・元気要素	0.237	0.018	0.306	12.849	0.000	0.981	1.020
安心・穏やか・温かい要素	0.425	0.018	0.555	23.354	0.000	0.981	1.020

共線性の診断

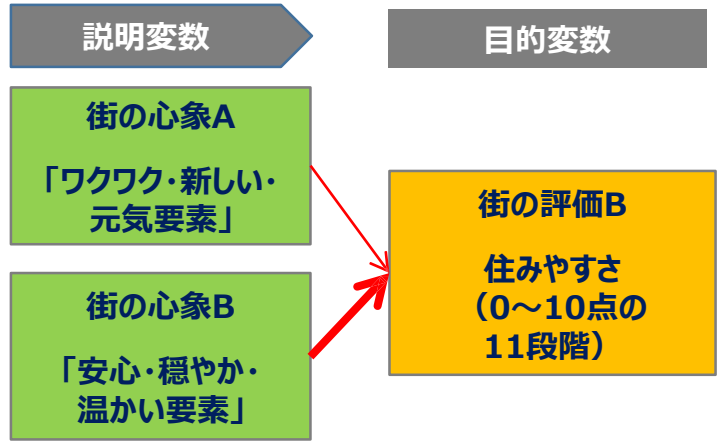
モデル (次元)	固有値	条件指数	分散プロパティ (定数)	ワクワク・新しい・元気要素	安心・穏やか・温かい要素
3	0.821	1.177	0.24	0.50	0.45

※「条件指数」からみて説明変数間の相関関係はない (=多重共線性はない=説明変数の独立性) と考えられる。



5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ②町田市民全体

II 「街の心象」と「街の評価」の構造確認



- : 標準化係数ベータ : 0.5以上
- : 標準化係数ベータ : 0.3～0.5未満
- : 標準化係数ベータ : 0.15～0.3未満

【町田市民のみ(n=996)】

モデルの要約

方法	目的変数	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	Durbin-Watson
強制投入法	住みやすさ (0～10点 : 11段階)	.677 ^a	0.459	0.458	1.298	1.960

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	1418.667	2	709.334	420.747	.000 ^b
残差	1674.091	993	1.686		
合計	3092.758	995			

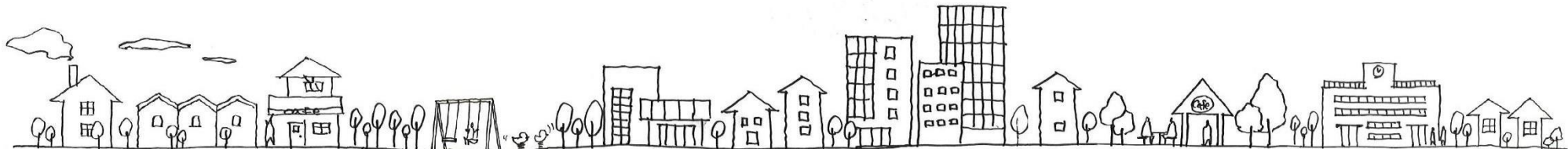
係数

説明変数	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量許容度	VIF
	B	標準誤差	ベータ				
(定数)	7.601	0.041		183.885	0.000		
ワクワク・新しい・元気要素	0.737	0.048	0.361	15.331	0.000	0.981	1.020
安心・穏やか・温かい要素	1.058	0.048	0.525	22.255	0.000	0.981	1.020

共線性の診断

モデル (次元)	固有値	条件指数	分散プロパティ (定数)	ワクワク・新し い・元気要素	安心・穏やか・ 温かい要素
				0.50	0.45
3	0.821	1.177	0.24		

※「条件指数」からみて説明変数間の相関関係はない (=多重共線性はない=説明変数の独立性) と考えられる。



5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ②町田市民全体

Ⅲ 「街の心象」&「街の評価」と「街の愛着指標」の構造確認

説明変数

街の心象A

「ワクワク・新しい・
元気要素」

街の心象B

「安心・穏やか・
温かい要素」

街の評価A

暮らしの満足度
(4段階)

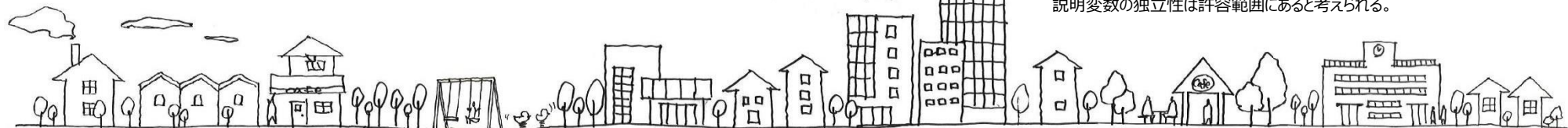
街の評価B

住みやすさ
(11段階)

街の愛着指標A

継続居住意向
(4段階)

- : 標準化係数ベータ : 0.5以上
- : 標準化係数ベータ : 0.3~0.5未満
- : 標準化係数ベータ : 0.15~0.3未満



【町田市民のみ(n=996)】

モデルの要約

方法	目的変数	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	Durbin-Watson
強制投入法	継続居住意向	.583 ^a	0.340	0.338	0.638	2.010

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	208.022	4	52.005	127.728	.000 ^b
残差	403.492	991	0.407		
合計	611.514	995			

係数

説明変数	非標準化係数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	共線性の 統計量 許容度	VIF
	B	標準誤差					
(定数)	1.581	0.143		11.022	0.000		
ワクワク・新しい・元気要素	0.099	0.027	0.110	3.698	0.000	0.759	1.318
安心・穏やか・温かい要素	0.174	0.031	0.194	5.609	0.000	0.559	1.789
暮らしの満足度 (4段階)	0.087	0.044	0.075	1.977	0.048	0.467	2.143
住みやすさ (0~10点 : 11段階)	0.150	0.017	0.338	8.881	0.000	0.459	2.181

共線性の診断

モデル (次元)	固有値	条件指数	分散プロパティ (定数)	ワクワク・新し い・元気要素	安心・穏やか・ 温かい要素	暮らしの満足 度	住みやすさ
				0.22	0.44	0.29	0.31
5	0.013	15.167	1.00				

※ 「条件指数」からみて説明変数間の相関関係を疑う (= 多重共線性) もの、説明変数間の関連性は小さく、説明変数の独立性は許容範囲にあると考えられる。

5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ②町田市民全体

Ⅲ 「街の心象」&「街の評価」と「街の愛着指標」の構造確認

説明変数

街の心象A
「ワクワク・新しい・
元気要素」

街の心象B
「安心・穏やか・
温かい要素」

街の評価A
暮らしの満足度
(4段階)

街の評価B
住みやすさ
(11段階)

街の愛着指標B
居住推奨意向
(4段階)

- : 標準化係数ベータ : 0.5以上
- : 標準化係数ベータ : 0.3~0.5未満
- : 標準化係数ベータ : 0.15~0.3未満

【町田市民のみ(n=996)】

モデルの要約

方法	目的変数	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	Durbin-Watson
強制投入法	居住推奨意向	.708 ^a	0.501	0.499	0.448	1.965

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	199.979	4	49.995	248.993	.000 ^b
残差	198.981	991	0.201		
合計	398.960	995			

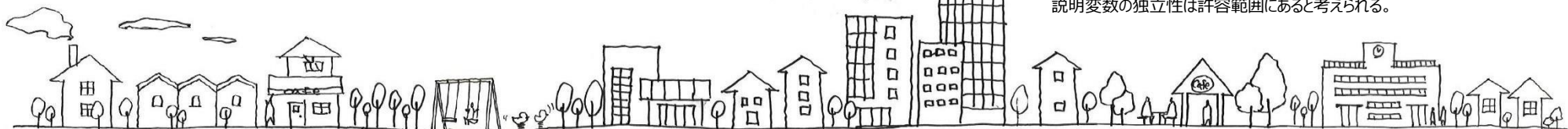
係数

説明変数	非標準化係数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	共線性の 統計量 許容度	VIF
	B	標準誤差					
(定数)	1.503	0.101		14.918	0.000		
ワクワク・新しい・元気要素	0.196	0.019	0.268	10.407	0.000	0.759	1.318
安心・穏やか・温かい要素	0.140	0.022	0.193	6.427	0.000	0.559	1.789
暮らしの満足度 (4段階)	0.098	0.031	0.104	3.163	0.002	0.467	2.143
住みやすさ (0~10点 : 11段階)	0.123	0.012	0.344	10.372	0.000	0.459	2.181

共線性の診断

モデル (次元)	固有値	条件指数	分散プロパティ (定数)	ワクワク・新し い・元気要素	安心・穏やか・ 温かい要素	暮らしの満足 度	住みやすさ
5	0.013	15.167	1.00	0.22	0.44	0.29	0.31

※ 「条件指数」からみて説明変数間の相関関係を疑う (= 多重共線性) もの、説明変数間の関連性は小さく、説明変数の独立性は許容範囲にあると考えられる。



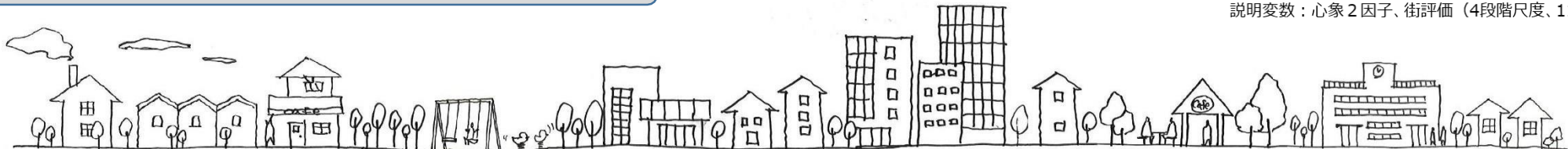
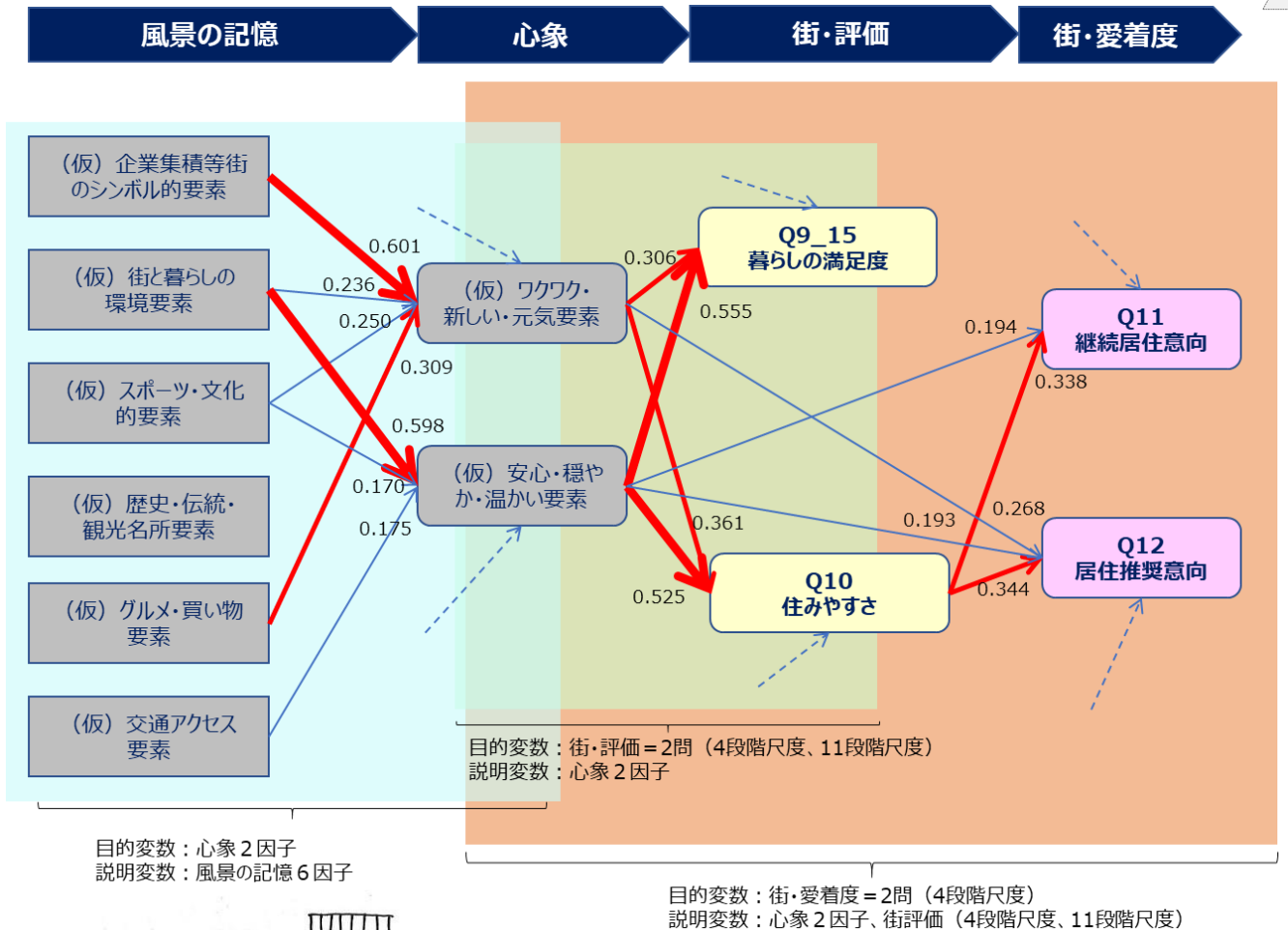
5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ②町田市民全体



町田市民における都市ブランドの構造をみると、風景としての「街と暮らしの環境」が「安心・穏やか・温かい」という心象に、そしてこれが「住みやすさ」の評価につながり、街への愛着に至る、と推定できる。

- 前頁までに示した重層的な重回帰モデルを町田市民に限って適用すると、右図にあるような構造に整理できる。
- 町田市民においては、まず『都市の風景（具体的な物象の記憶）』における「街と暮らしの環境要素」は『街の心象（抽象化された記憶）』における「安心・穏やか・温かい要素」と、「企業集積等の街のシンボル要素」および「グルメ・買い物要素」は『街の心象』における「ワクワク・新しい・元気要素」と、それぞれ関連している。
- この『街の心象』に当たる「安心・穏やか・温かい要素」および「ワクワク・新しい・元気要素」は、『街の評価』である「暮らしの満足度」および「住みやすさ」のそれぞれに一定の関連性を示している。
- この『街の評価』の指標のうち、「住みやすさ」は『街へのロイヤルティ』を示す指標である「継続居住意向」や「居住推奨意向」とも関連している。一方、『街の評価』としてのもう一つの指標である「暮らしの満足度」は、『街へのロイヤルティ』とは関連性をみせていない。
- 以上の結果をふまえると、住む街に対する愛着（ロイヤルティ）を醸成するためには、「街のシンボリックな要素」や「ワクワク・新しい・元気要素」も大切ではあるが、「住みやすさ」につながる「街と暮らしの要素」がもたらす「安心・穏やか・温かい要素」がより重要であることがわかる。

【町田市民のみ(n=996)】



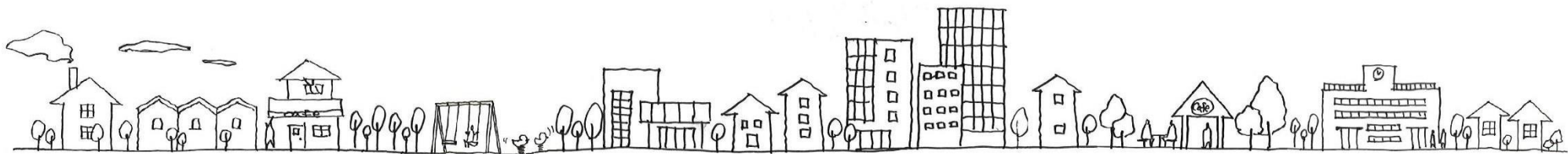
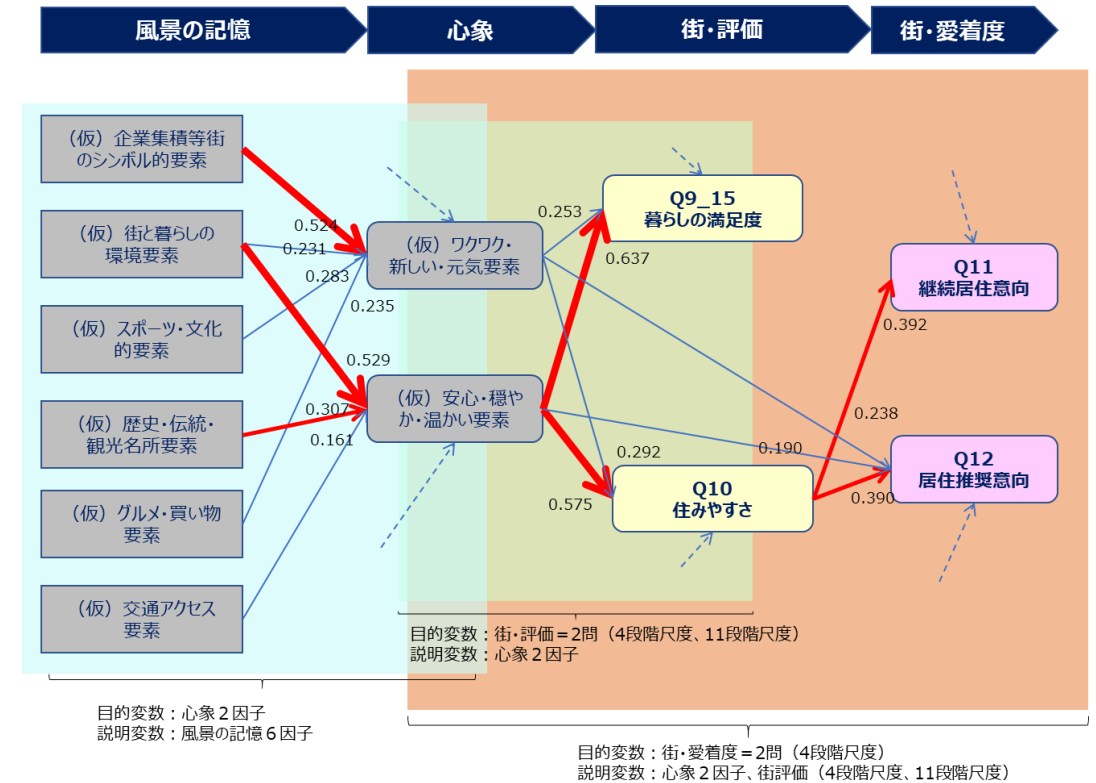
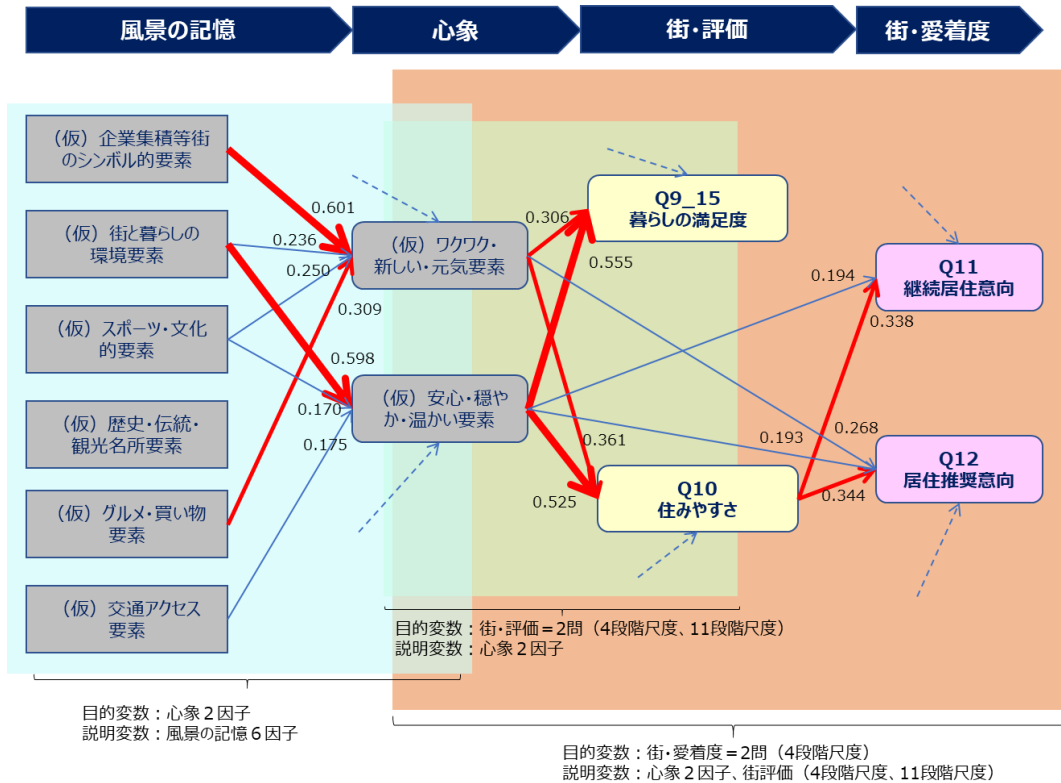
5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ③ 4 市民比較

関連性の強弱に多少の違いがあるが、町田市民を含む 4 市民における都市ブランドの構造はほぼ類似しているといえる。

➤ 都市ブランドの構造仮説に従って、重回帰モデルを重層的に行った結果、町田市民以外の他の 3 市民においても、ほぼ同様の構図がみられる。

【町田市民(n=996)】

【八王子市民(n=1,321)】 ※詳細な統計データは巻末 (P.207~212) を参照

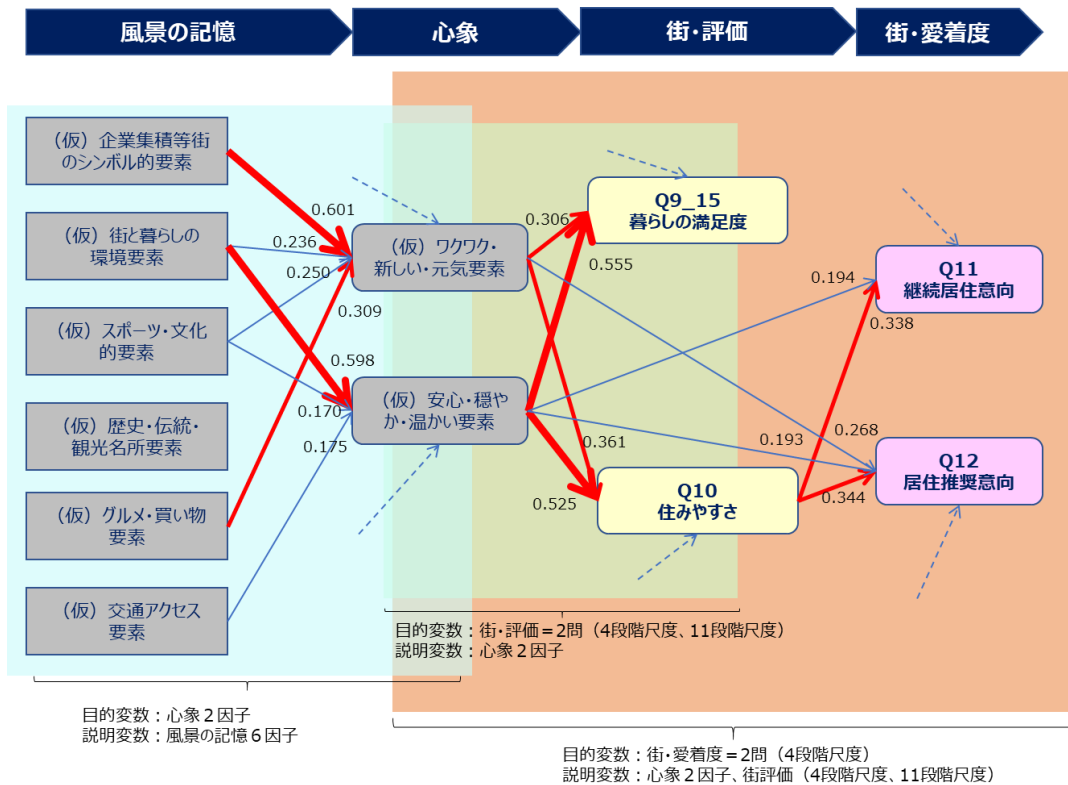


5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ③ 4 市民比較

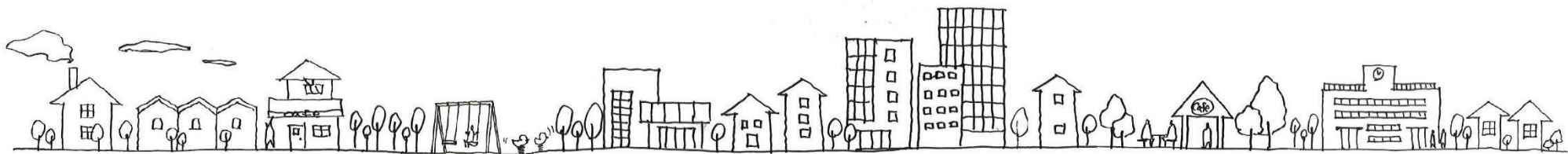
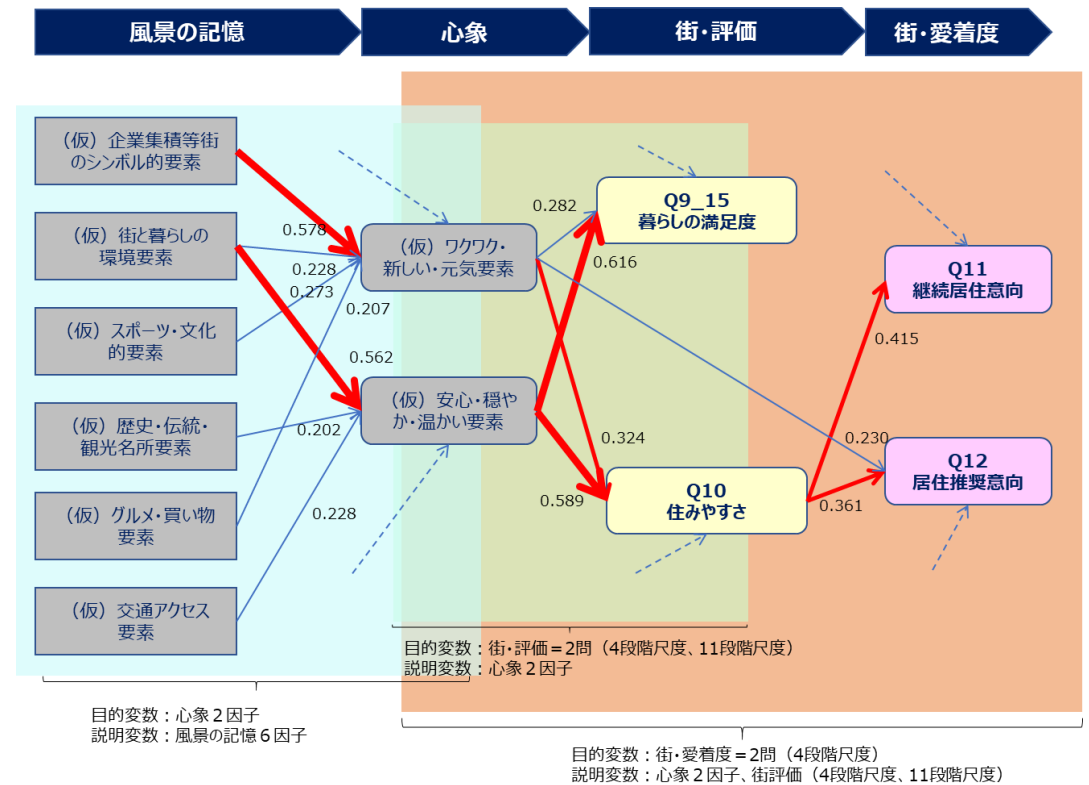
関連性の強弱に多少の違いがあるが、町田市民を含む 4 市民における都市ブランドの構造はほぼ類似しているといえる。

➤ 都市ブランドの構造仮説に従って、重回帰モデルを重層的に行った結果、町田市民以外の他の 3 市民においても、ほぼ同様の構図がみられる。

【町田市民(n=996)】



【所沢市民(n=827)】 ※詳細な統計データは巻末 (P.213~218) を参照



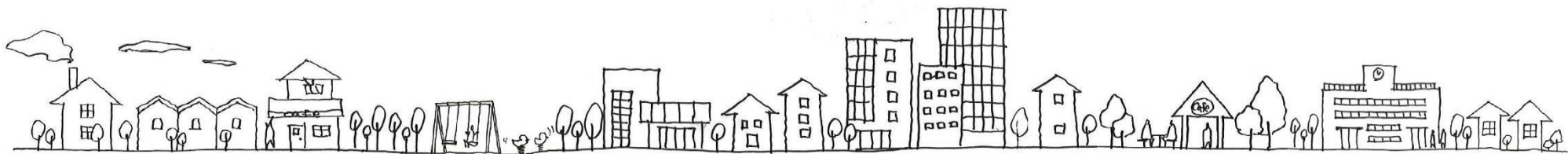
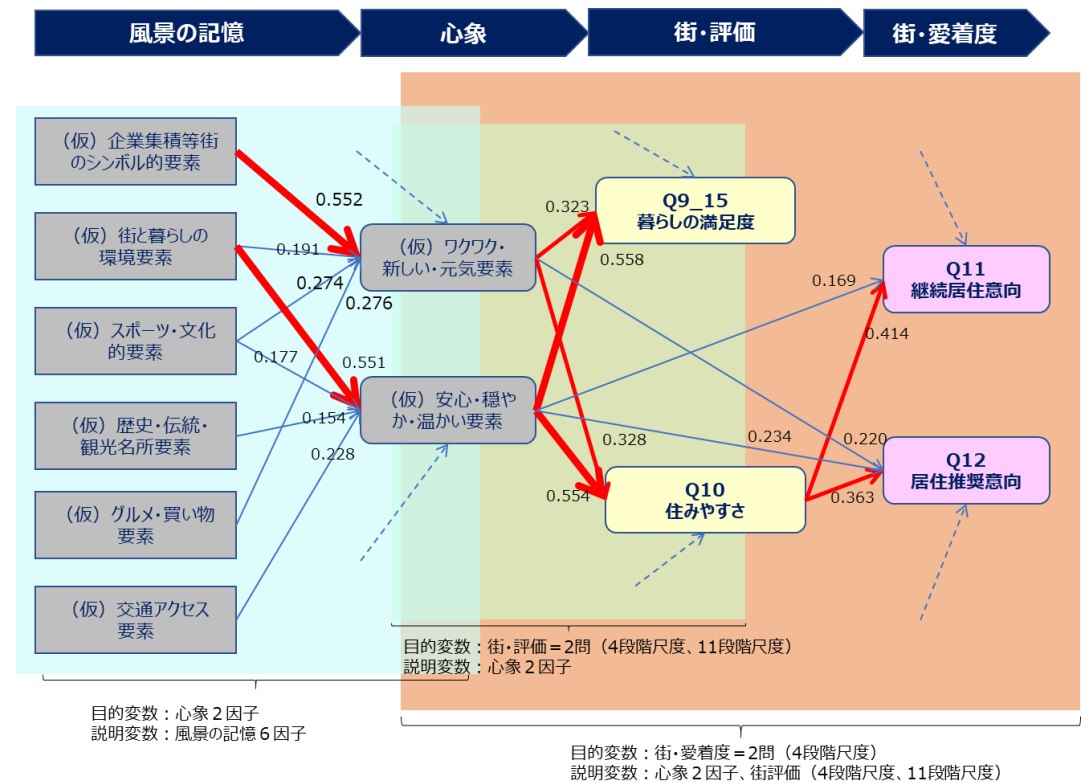
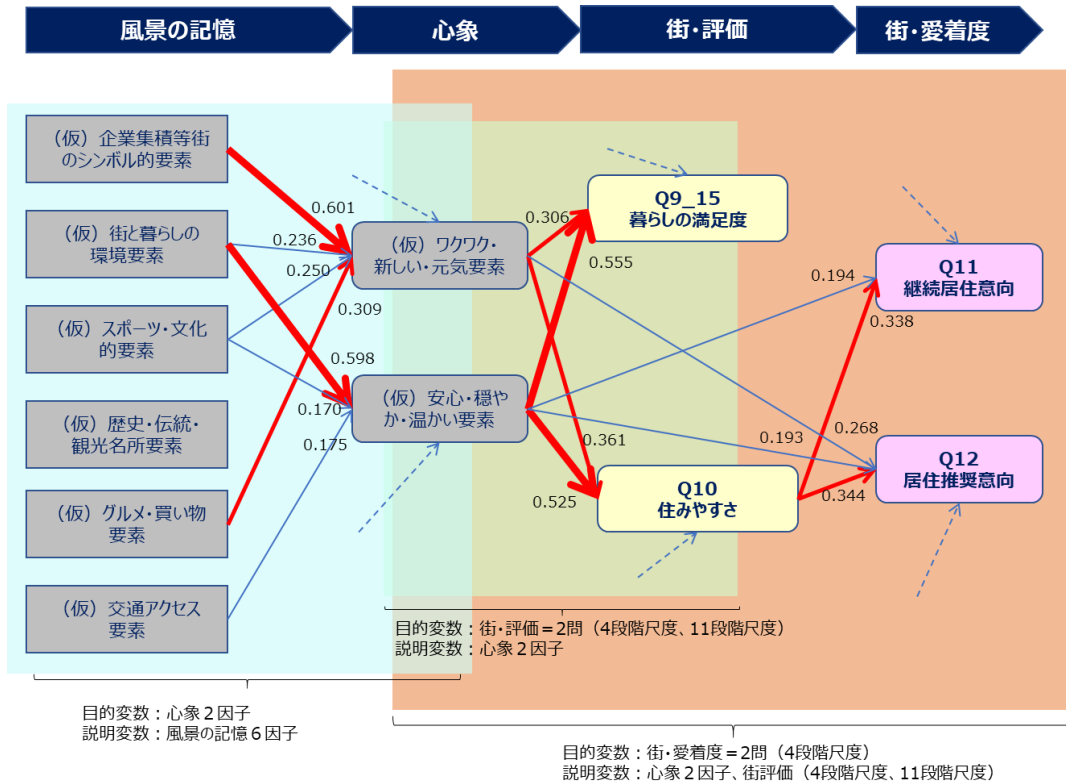
5. 都市ブランド・アプローチ 9) 都市ブランドの構造分析 ③ 4 市民比較

関連性の強弱に多少の違いがあるが、町田市民を含む4市民における都市ブランドの構造はほぼ類似しているといえる。

➤ 都市ブランドの構造仮説に従って、重回帰モデルを重層的に行った結果、町田市民以外の他の3市民においても、ほぼ同様の構図がみられる。

【町田市民(n=996)】

【柏市民(n=997)】 ※詳細な統計データは巻末 (P.219~224) を参照



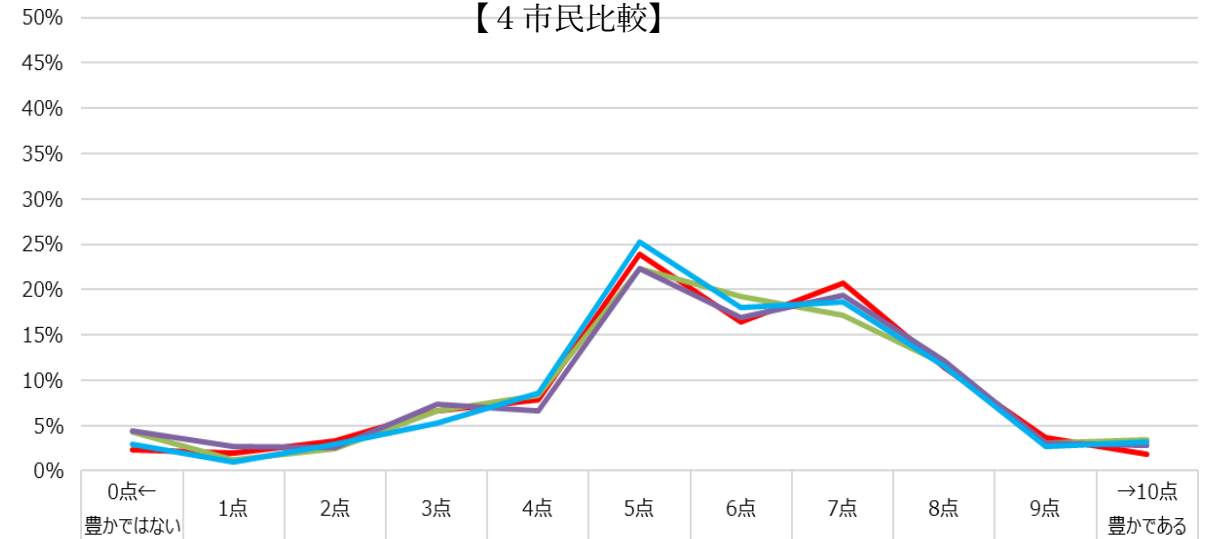
6. 「豊かさ」実感 ① 4 市民比較

町田市民による「豊かさ」実感では、評価点に2つのピークがある。

- 「豊かさ」実感（0～10点）においては、町田市民を含む4市民の間で顕著な差異はみられない。
- ただし、町田市民をはじめ、所沢市民と柏市民では「5点」と「7点」の2つのピーク、すなわち“ふた山”型の分布であるのに対して、八王子市民では「5点」にひとつピークがみられる“ひと山”型の分布、という傾向の違いがややみられる。
- なお、「豊かさ」実感の平均得点からみて最も「豊かさ」を実感しているのは柏市民（5.71点）である。町田市民はこれに次ぐ5.65である。ただし、町田市と隣接する八王子市の平均値の差は僅少である。

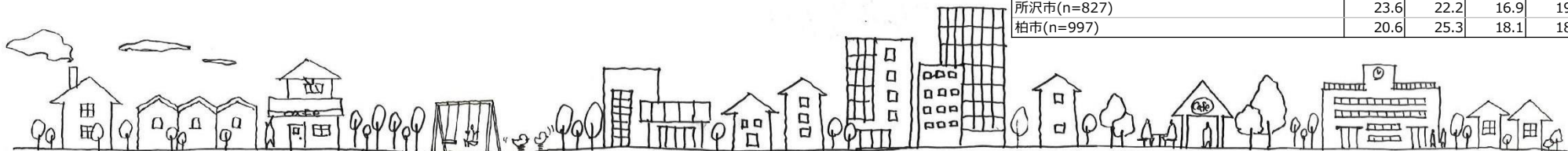
Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。
0点から10点の中でお答えください。

【4 市民比較】



	0点← 豊かではない	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	→10点 豊かである
町田市(n=996)	2.3	2.0	3.3	6.6	7.8	23.9	16.5	20.7	11.4	3.6	1.8
八王子市(n=1,321)	4.3	1.2	2.4	6.7	8.3	22.3	19.2	17.2	11.7	3.1	3.5
所沢市(n=827)	4.4	2.7	2.5	7.4	6.7	22.2	16.9	19.3	12.1	3.0	2.8
柏市(n=997)	2.9	1.0	2.9	5.2	8.5	25.3	18.1	18.7	11.5	2.7	3.2

	0～4 点	5点	6点	7点	8～10 点	平均値
4市合計(n=4,141)	22.3	23.4	17.8	18.8	17.7	5.64
町田市(n=996)	22.1	23.9	16.5	20.7	16.9	5.65
八王子市(n=1,321)	22.9	22.3	19.2	17.2	18.3	5.63
所沢市(n=827)	23.6	22.2	16.9	19.3	17.9	5.56
柏市(n=997)	20.6	25.3	18.1	18.7	17.5	5.71

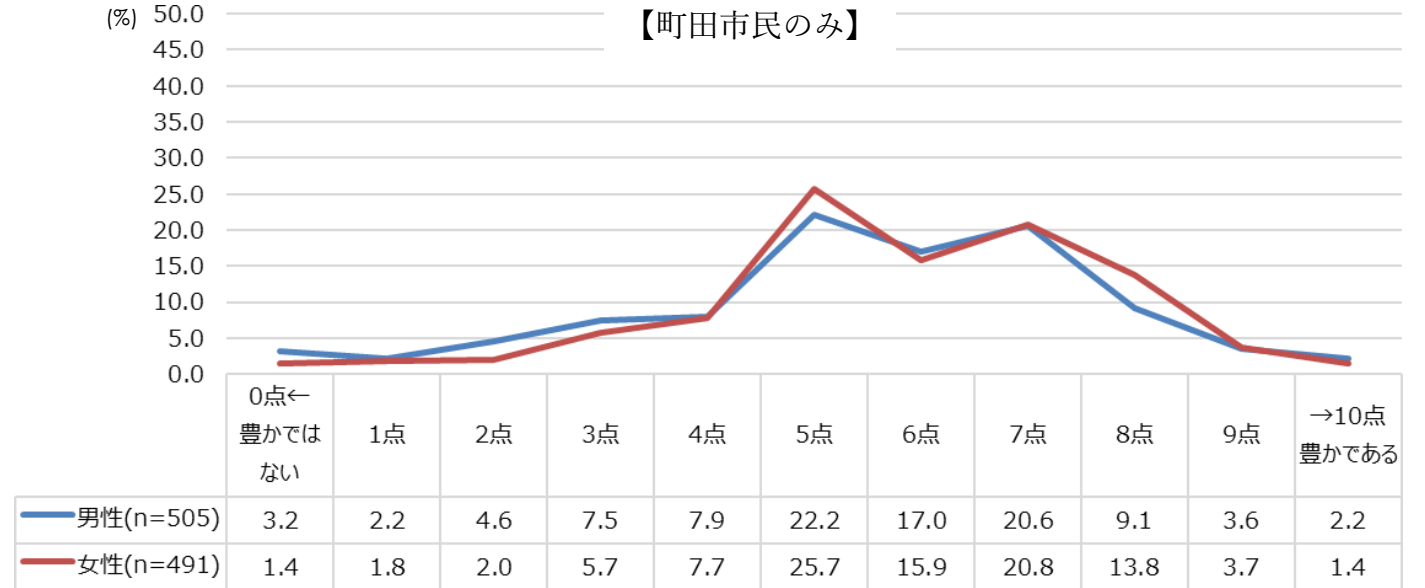


6. 「豊かさ」実感 ②町田市民のみ・属性分析（性別）

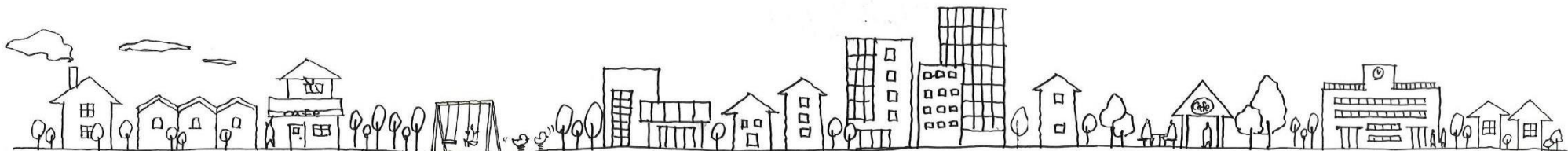
町田市民のうち、女性の方が「豊かさ」をやや実感している。

- 町田市民における「豊かさ」実感（0～10点）について性別で見ると、男女ともに「豊かさ」実感の分布は、「5点」と「7点」にピークを有する“ふた山”型となっている。
- 「豊かさ」実感の「5点」以上の評価点では性差はみられないが、「0～4点（合計）」の比率をみると、男性の方が女性よりも高い。
- そのような傾向もあり、「豊かさ」実感の平均得点からみて、「豊かさ」を実感しているのは女性といえる。

Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。
0点から10点の中でお答えください。



	0～4 点	5点	6点	7点	8～10 点	平均値
男性(n=505)	25.3	22.2	17.0	20.6	14.9	5.50
女性(n=491)	18.7	25.7	15.9	20.8	18.9	5.81

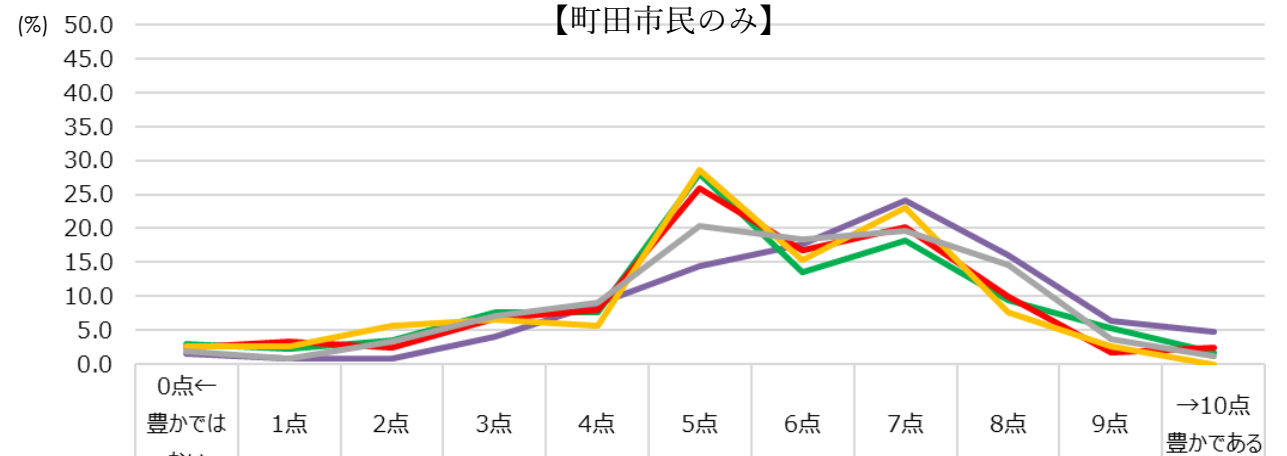


6. 「豊かさ」実感 ②町田市民のみ・属性分析（年代別）

町田市民のうち20代は、「豊かさ」を実感している。反対に、50代は相対的に「豊かさ」を実感する人の比率が低い。

- 町田市民における「豊かさ」実感（0～10点）では、「7点」にひとつピーク（“ひと山”型分布）を有する20代と、「5点」と「7点」に2つのピーク（“ふた山”型分布）を有する30代～50代、「5～7点」の中でなだらかなピークを有する60代以上、といったように、年代により3つの異なるパターンがみられる。
- 「0～4点（合計）」では、20代と30代以上との間で差異がみられる。「5点」では、30～50代の割合が20代および60代以上よりも高い。「8点以上（合計）」では20代の割合が特に30～50代よりも顕著に高い。
- 以上のような得点分布もあり、「豊かさ」実感の平均得点からみて、最も「豊かさ」を実感しているのは20代（6.34）で、次いで60代以上の5.76となっている。これに対して30～50代は相対的に低い。

Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。
0点から10点の中でお答えください。



	0点← 豊かでは ない	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	→10点 豊かである
20代(n=124)	1.6	0.8	0.8	4.0	8.9	14.5	17.7	24.2	16.1	6.5	4.8
30代(n=171)	2.9	2.3	3.5	7.6	7.6	28.1	13.5	18.1	9.4	5.3	1.8
40代(n=239)	2.5	3.3	2.5	6.7	7.9	25.9	16.7	20.1	10.0	1.7	2.5
50代(n=196)	2.6	2.6	5.6	6.6	5.6	28.6	15.3	23.0	7.7	2.6	0.0
60代以上(n=266)	1.9	0.8	3.4	7.1	9.0	20.3	18.4	19.5	14.7	3.8	1.1

	0～4 点	5点	6点	7点	8～10 点	平均値
20代(n=124)	16.1	14.5	17.7	24.2	27.4	6.34
30代(n=171)	24.0	28.1	13.5	18.1	16.4	5.50
40代(n=239)	23.0	25.9	16.7	20.1	14.2	5.51
50代(n=196)	23.0	28.6	15.3	23.0	10.2	5.36
60代以上(n=266)	22.2	20.3	18.4	19.5	19.5	5.76

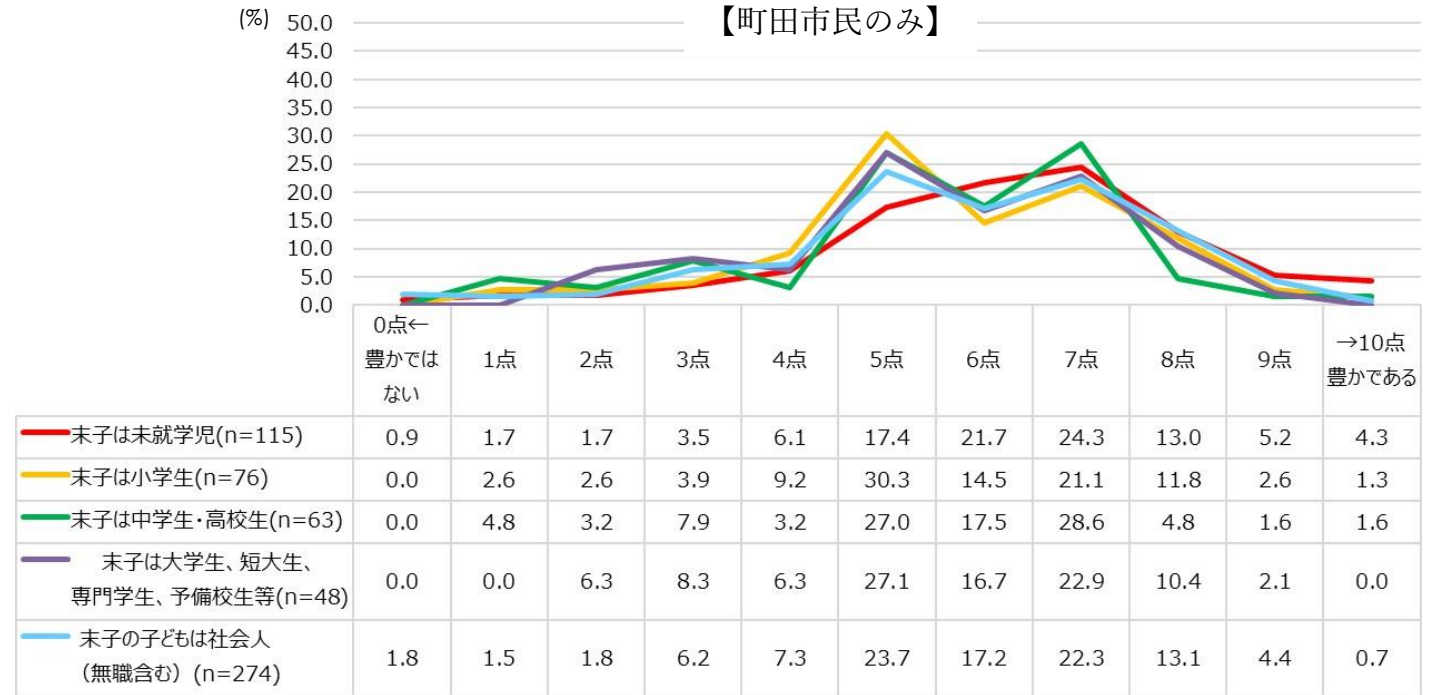


6. 「豊かさ」実感 ②町田市民のみ・属性分析（末子学齢別）

町田市民のうち、末子が小学生以上のライフステージの人では、「豊かさ」実感が「ふた山」型の分布、すなわち評価が分かれている。

- 町田市民における「豊かさ」実感（0～10点で評価）においては、ライフステージ（末子の学齢）により傾向が異なる。
- 末子が未就学児の人では、「7点」をピークとする「ひと山」型の分布だが、子どもがいない人も含めて他のライフステージでは「5点」と「7点」にピークを有する「ふた山」型の分布をとっている。
- このうち、「豊かさ」実感の「7点」に着目すると、末子が中学生・高校生の人ではおよそ3割であり、他のライフステージの人よりも高い。
- 次に「5点」に着目すると、末子が小学生から大学生・短大生・専門学校生（大学浪人含む）までのステージにある人のそれぞれおよそ3割を示しており、末子が未就学児および末子が社会人よりも高い。
- 以上の分布を背景に、「豊かさ」実感の平均得点からみて、最も「豊かさ」を実感しているのは末子が未就学児の人（6.23）である。反対に、子どもがいる人で「豊かさ」を実感していないのは末子が中学生・高校生の人（5.56）である。なお、町田市民全体でみたときに最も「豊かさ」を実感していないのは、子どもがいない人（5.39）である。

Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。0点から10点の中でお答えください。



※上図では、見やすさを考慮して「子どもはいない (n=420)」を省略している。

	0～4 点	5点	6点	7点	8～10 点	平均値
子どもはいない(n=420)	27.9	23.8	14.8	17.1	16.4	5.39
未子は未就学児(n=115)	13.9	17.4	21.7	24.3	22.6	6.23
未子は小学生(n=76)	18.4	30.3	14.5	21.1	15.8	5.74
未子は中学生・高校生(n=63)	19.0	27.0	17.5	28.6	7.9	5.56
未子は大学生・短大生、専門学校生、予備校生等(n=48)	20.8	27.1	16.7	22.9	12.5	5.60
末子の子どもは社会人（無職含む）(n=274)	18.6	23.7	17.2	22.3	18.2	5.82

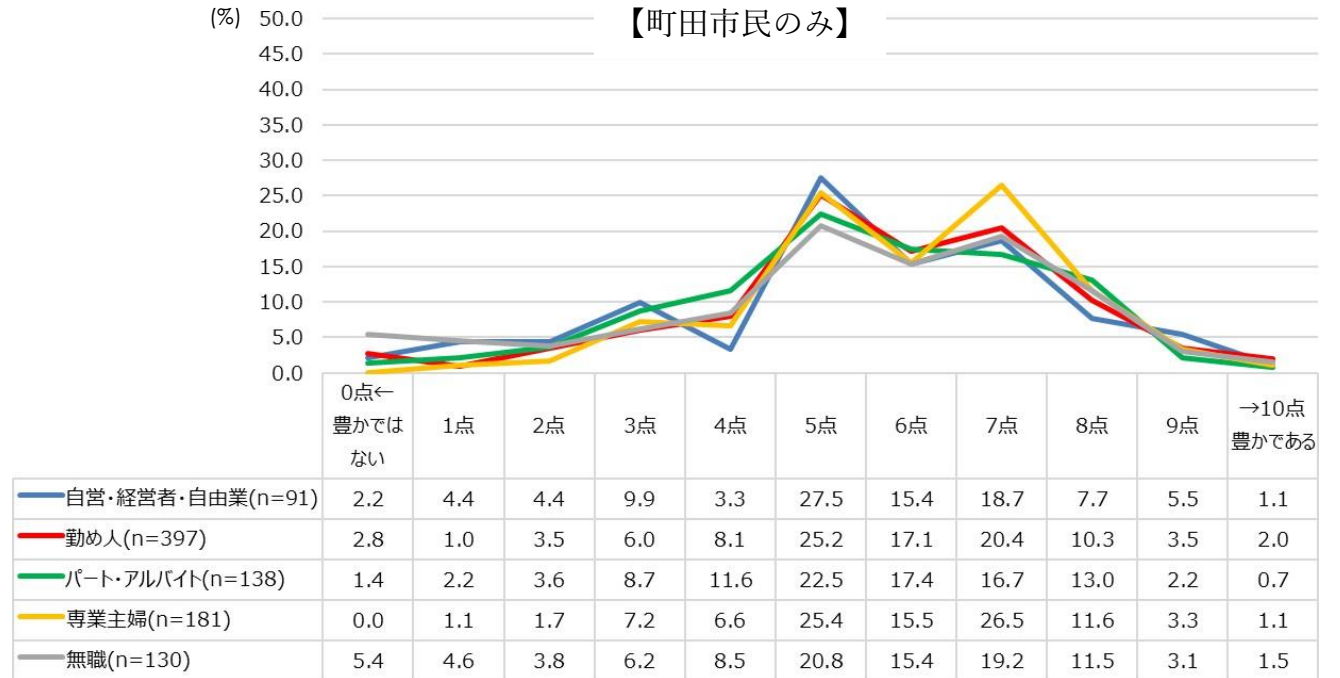


6. 「豊かさ」実感 ②町田市民のみ・属性分析（職業別）

町田市民のうち、パート・アルバイトを除く職業では、「豊かさ」実感が「ふた山」型の分布、すなわち評価が分かれている。

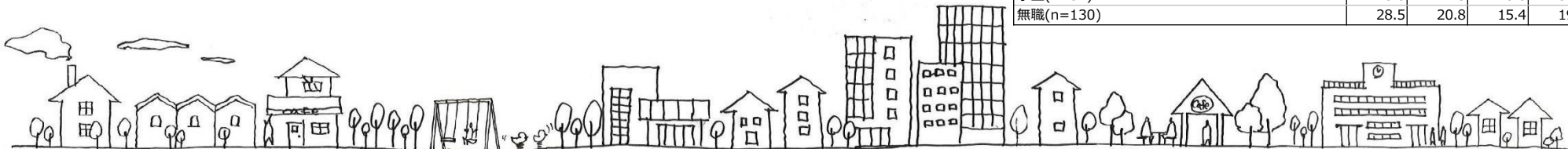
- 町田市民における「豊かさ」実感（0～10点）は、職業によって傾向が異なる。
- パート・アルバイトの人は、「5点」にピークを有する「ひと山」型の分布だが、他の職業の人（サンプルサイズから「学生」を除く）では「5点」と「7点」にピークを有する「ふた山」型の分布をしている。その中でも明確な「ふた山」型の分布をとるのは、専業主婦である。
- 「0～4点（合計）」では、無職やパート・アルバイトの人のおよそ3割、自営・経営者・自由業や勤め人のおよそ2割を占めるのに対して、専業主婦では2割に満たない。反対に、「7点」では専業主婦の割合が他の職業の人よりも高い。
- 上記のような分布を背景に、「豊かさ」実感の平均得点からみて、最も「豊かさ」を実感しているのは専業主婦（5.92）である。反対に、最も「豊かさ」を実感していないのは無職（5.31）である。

Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。
0点から10点の中でお答えください。



※ 上図では、サンプルサイズが小さいことから「学生（n=32）」を割愛している。

	0～4 点	5点	6点	7点	8～10 点	平均値
自営・経営者・自由業(n=91)	24.2	27.5	15.4	18.7	14.3	5.38
勤め人(n=397)	21.4	25.2	17.1	20.4	15.9	5.64
パート・アルバイト(n=138)	27.5	22.5	17.4	16.7	15.9	5.46
専業主婦(n=181)	16.6	25.4	15.5	26.5	16.0	5.92
学生(n=32)	18.8	12.5	18.8	31.3	18.8	6.13
無職(n=130)	28.5	20.8	15.4	19.2	16.2	5.31

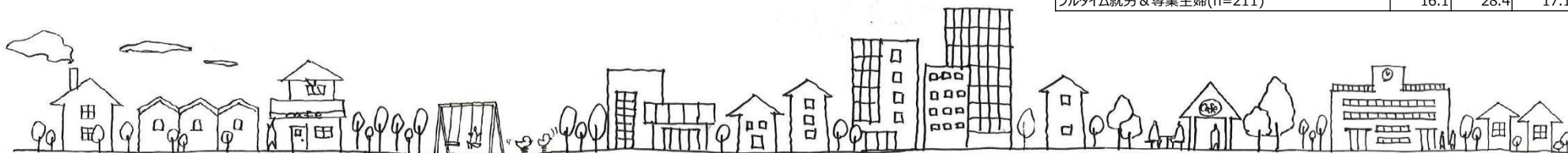
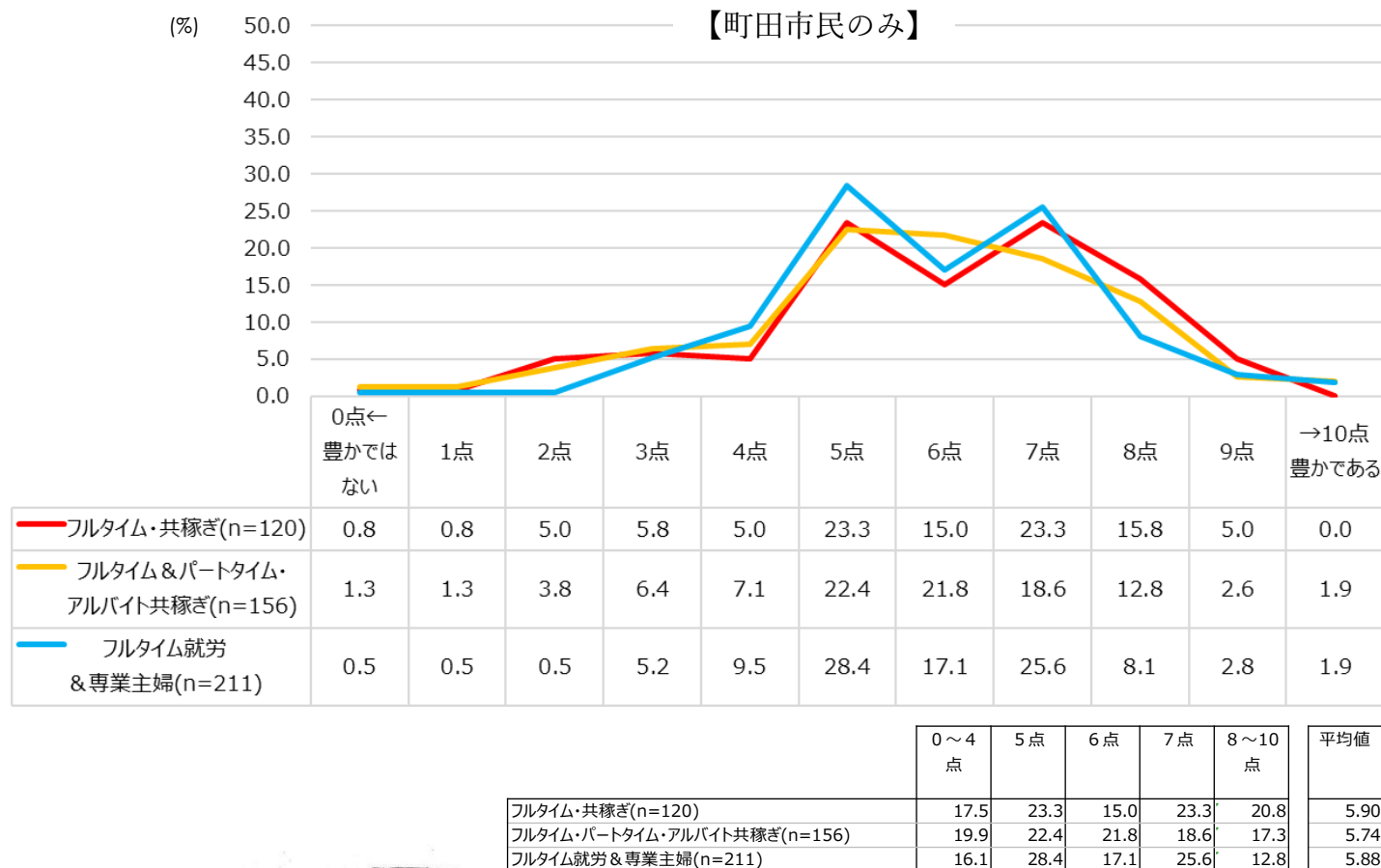


6. 「豊かさ」実感 ②町田市民のみ・属性分析（夫婦就労状況別）

町田市民のうち、「フルタイム共稼ぎ」と「フルタイム就労&専業主婦」はほぼ同じ水準の「豊かさ」実感だが、「フルタイム&パート・アルバイト共稼ぎ」はそれよりも低い。

- 町田市民における「豊かさ」実感（0～10点）においては、家庭の就労状況（共稼ぎ世帯または専業主婦世帯）により評価が異なる傾向がある。
- 「フルタイム・共稼ぎ」および「フルタイム就労&専業主婦」では、「豊かさ」実感として「5点」と「7点」にピークを有する“ふた山”型となっている。
- その「5点」では「フルタイム就労&専業主婦」の方が、「8点」では「フルタイム・共稼ぎ」の方が、それぞれに相対的に高い評価をしている。
- ただし、「フルタイム&パート・アルバイトの共稼ぎ」は「5～6点」をピークとする“ひと山”型の分布をとっている。
- なお、「豊かさ」実感の平均得点からみて最も「豊かさ」を実感しているのは「フルタイム・共稼ぎ」（5.90）である。反対に、「豊かさ」を実感していないのは「フルタイム&パート・アルバイトの共稼ぎ」（5.74）である。

Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。
0点から10点の中でお答えください。

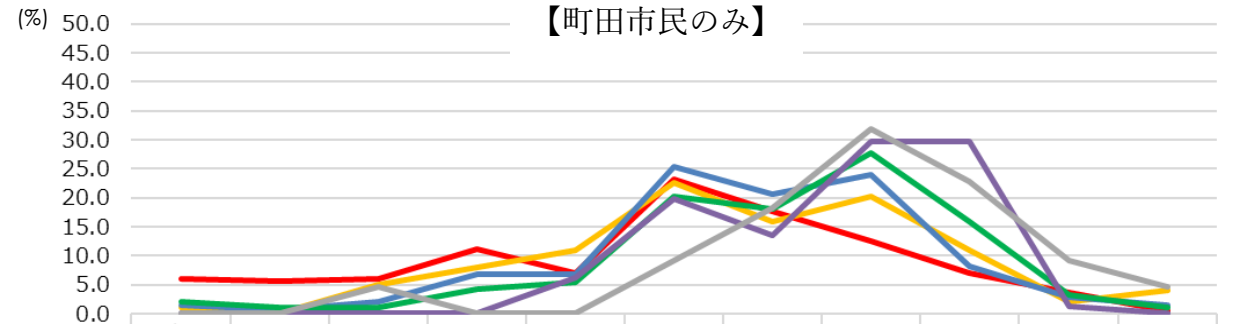


6. 「豊かさ」実感 ②町田市民のみ・属性分析（世帯年収別）

町田市民のうち、世帯年収が高い人ほど「豊かさ」実感を得ている。

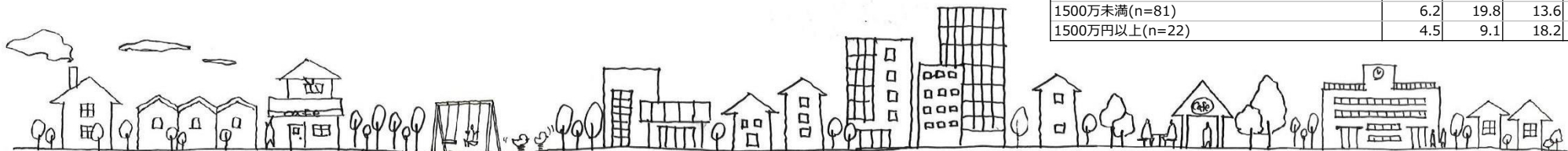
- 町田市民における「豊かさ」実感（0～10点）では、世帯年収の規模により評価が異なる傾向がみられる。
- 年収が低い人ほど「豊かさ」実感を「0～4点（合計）」と評価し、「6点」を境に、年収が高い人ほど「7点」または「8点以上（合計）」と評価している。
- なお、「豊かさ」実感の「5点」については、世帯年収1500万円以外の世帯年収ランクの間では顕著な差異はみられない。
- また、「豊かさ」実感の評価の分水嶺となる「6点」においても、世帯年収ランクの間で顕著な差異はみられない。
- なお、「豊かさ」実感の平均得点からみて、最も「豊かさ」を実感しているのは世帯年収1,500万円以上の人（6.95）である。反対に、「豊かさ」を実感していないのは世帯年収400万円未満（4.81）である。このように、世帯年収により「豊かさ」実感に顕著な差異がある。

Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。
0点から10点の中でお答えください。



	0点← 豊かでは ない	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	→10点 豊かである
400万未満(n=216)	6.0	5.6	6.0	11.1	6.9	23.1	17.6	12.5	6.9	3.7	0.5
600万未満(n=203)	1.0	0.0	4.9	7.9	10.8	22.7	15.8	20.2	10.8	2.0	3.9
800万未満(n=146)	1.4	0.7	2.1	6.8	6.8	25.3	20.5	24.0	8.2	2.7	1.4
1000万未満(n=94)	2.1	1.1	1.1	4.3	5.3	20.2	18.1	27.7	16.0	3.2	1.1
1500万未満(n=81)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.2	19.8	13.6	29.6	29.6	1.2	0.0
1500万円以上(n=22)	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	9.1	18.2	31.8	22.7	9.1	4.5

	0～4 点	5点	6点	7点	8～10 点	平均値
400万未満(n=216)	35.6	23.1	17.6	12.5	11.1	4.81
600万未満(n=203)	24.6	22.7	15.8	20.2	16.7	5.70
800万未満(n=146)	17.8	25.3	20.5	24.0	12.3	5.75
1000万未満(n=94)	13.8	20.2	18.1	27.7	20.2	6.07
1500万未満(n=81)	6.2	19.8	13.6	29.6	30.9	6.60
1500万円以上(n=22)	4.5	9.1	18.2	31.8	36.4	6.95



6. 「豊かさ」実感 ③町田市民のみ・ライフスタイル別分析

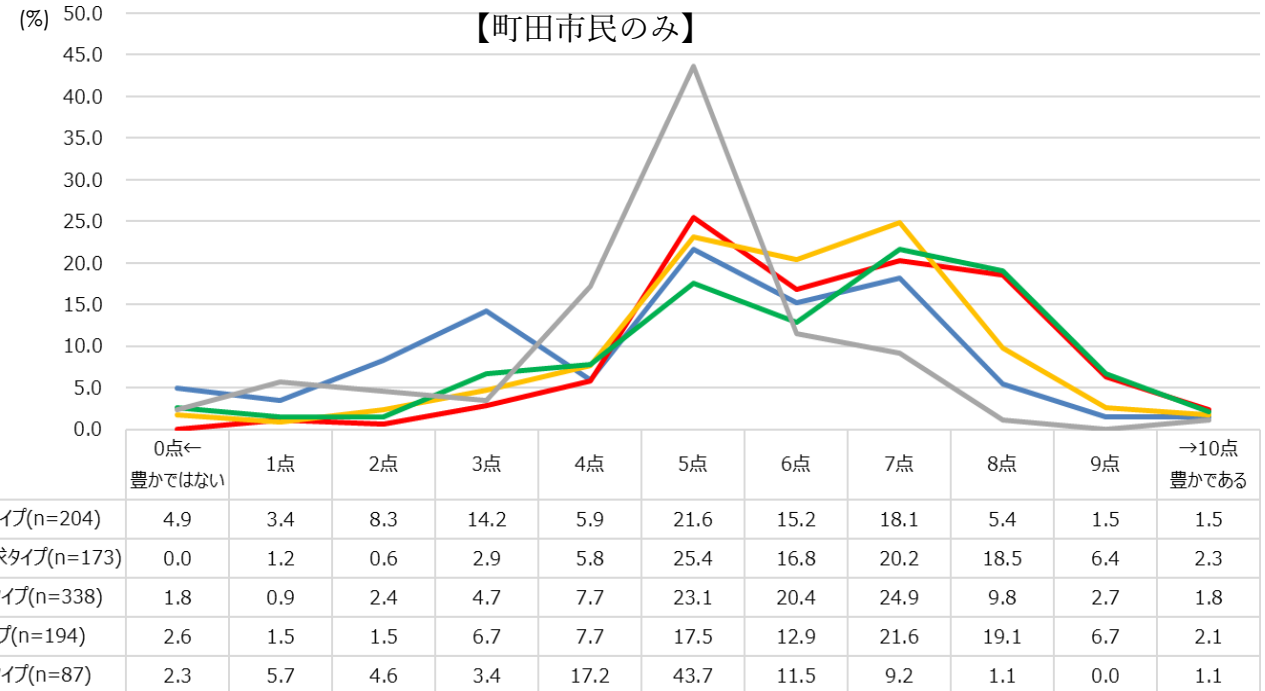
ライフスタイル（生活価値観）により町田市民の「豊かさ」実感の傾向は異なる。

- 町田市民における「豊かさ」実感（0～10点）では、生活価値観ベースのライフスタイルにより評価が異なる傾向がある。
- 「その日暮らしタイプ」は、「5点」に集中する（およそ4割）“ひと山”型の分布である。
- 「自己超越欲求タイプ」「自己満足タイプ」「消極的同調タイプ」では、「5点」と「7点」にピークを有する“ふた山”型となっている。さらに、「身の丈安定タイプ」については、「5点」と「7点」以外に、「3点」にもピークのある“三つ山”型となっている。
- 「豊かさ」実感の平均得点からみて、最も「豊かさ」を実感しているのは「自己超越欲求タイプ」（7.27）である。反対に、「豊かさ」を実感していないのは「その日暮らしタイプ」（5.30）である。このようにライフスタイルにより「豊かさ」実感に顕著な差異がみられる。

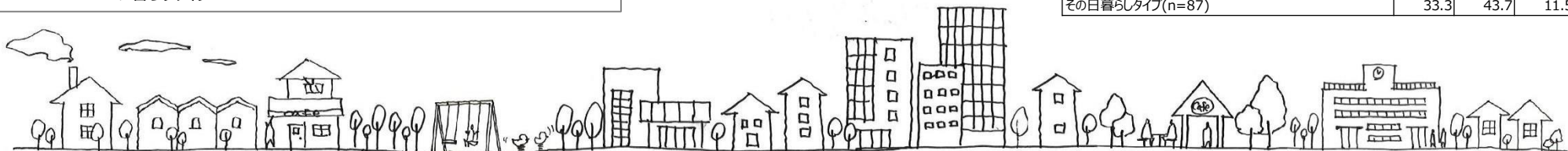
■生活価値観によるタイプ分類

- 「身の丈安定タイプ」：社会貢献も考えず、周りの評判を気にせず、ただ安定志向なタイプ
- 「自己超越欲求タイプ」：周りの評判を強く気にしながら、社会貢献を意識する一方、とにかく自分の可能性を高めたい、というタイプ
- 「消極的同調タイプ」：突出した特徴はないものの、自身の安定さはさほど求めず、また周りの評判も若干気にしているタイプ
- 「自己満足タイプ」：とにかく自身の暮らしに安定を求めている。その中で、周りの評判を気にせず、ふだんから費用対効果を求めたり、自分の可能性を試しているタイプ。
- 「その日暮らしタイプ」：日々の暮らしに安定を求めず、自分の可能性を試すわけでもなく、費用対効果を意識するわけでもなく、社会貢献の意欲もなく、総じて日々を利便に暮らすタイプ

Q14 あなたからみて現在のご自身の暮らしは、「豊か」だと思いますか。
0点から10点の中でお答えください。



	0～4 点	5点	6点	7点	8～10 点	平均値
身の丈安定タイプ(n=204)	36.8	21.6	15.2	18.1	8.3	6.13
自己超越欲求タイプ(n=173)	10.4	25.4	16.8	20.2	27.2	7.27
消極的同調タイプ(n=338)	17.5	23.1	20.4	24.9	14.2	6.66
自己満足タイプ(n=194)	20.1	17.5	12.9	21.6	27.8	6.98
その日暮らしタイプ(n=87)	33.3	43.7	11.5	9.2	2.3	5.30

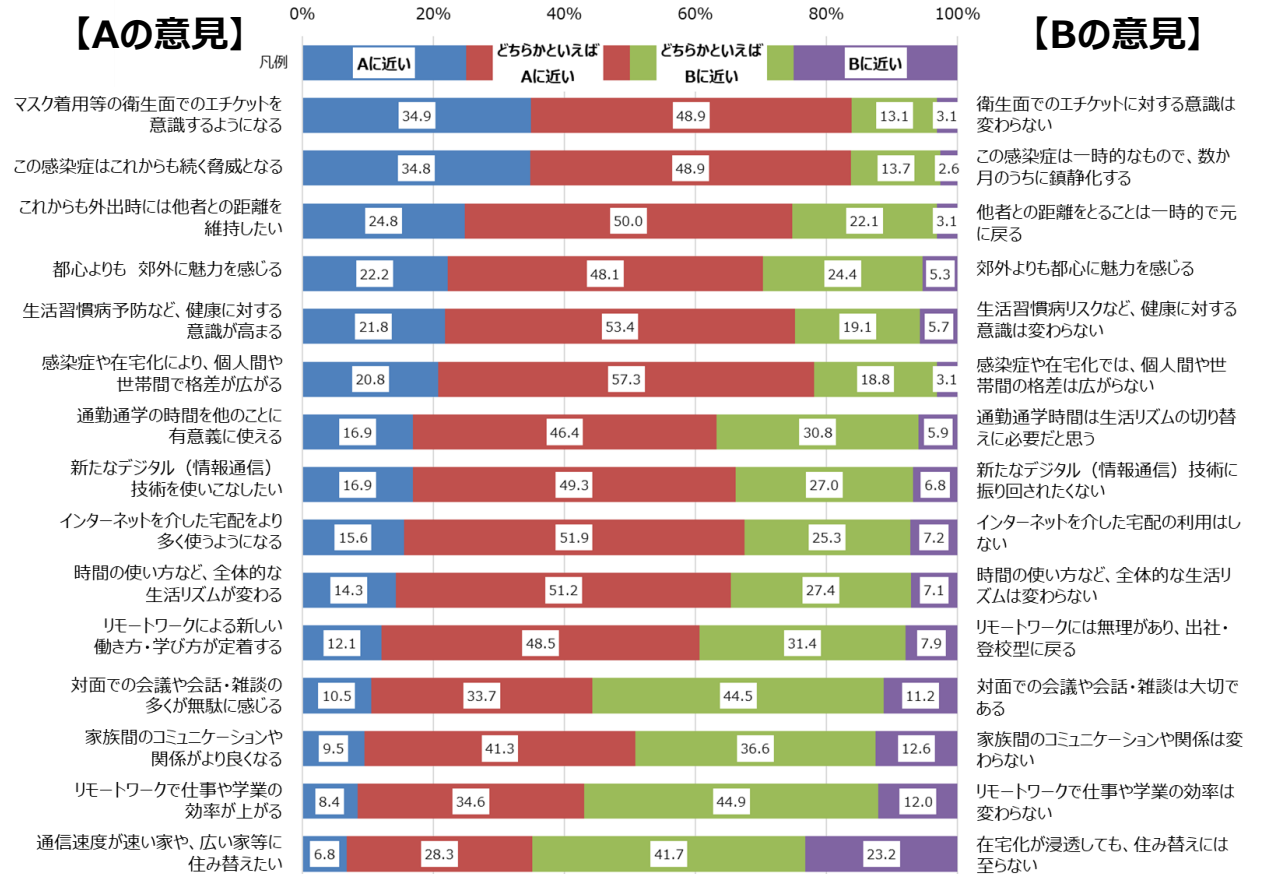


7. 新型コロナウイルス感染症による意識変化 ①町田市民全体

新型コロナウイルス感染症（Covid-19）はこれからも続くことを想定して、衛生面でのエチケット意識の向上している。

- Covid-19による社会変化（「Aの意見に近い」および「どちらかといえばAの意見に近い」の合計）に対する意識をみると、町田市民のおよそ8割が「マスク着用等の衛生面でのエチケットを意識するようになる」「この感染症はこれからも続く脅威となる」「感染症や在宅化により、個人間や世帯間で格差が広がる」「生活習慣病予防など健康に対する意識が高まる」を挙げている。
- また、町田市民のおよそ7割が「これからも外出時には他者との距離を維持したい」「都心よりも郊外に魅力を感じる」「インターネットを介した宅配をより多く使う」「新たなデジタル（情報通信）技術を使いこなしたい」「時間の使い方など、全体的な生活リズムが変わる」といった変化を感じている。
- このうち、「都心よりも郊外に魅力を感じる」という社会変化が意識される反面、およそ6割超の人が「在宅化が浸透しても住み替えには至らない」という社会変化に否定的な意見（「Bの意見に近い」および「どちらかといえばBの意見に近い」の合計）を有している。
- また、町田市民の半数以上が「リモートワークで仕事や学業の効率は変わらない」「対面での会議や会話・雑談は大切である」という社会変化に否定的な意見（「Bの意見に近い」および「どちらかといえばBの意見に近い」の合計）を有している。このように、Covid-19で浸透が進んだといわれるリモートワークによる働き方の変化については、町田市民全体でみると意見が二分されている。

Q16 今年の前半は、新型コロナウイルスによる感染症（Covid-19）が、日本社会に大きな影響をもたらしました。次にあげるAおよびBの意見について、あなたはどちらの意見に近いですか。（ひとつずつ）【町田市民のみ(n=996)】



※ 上図では、町田市民の「Aに近い」の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。

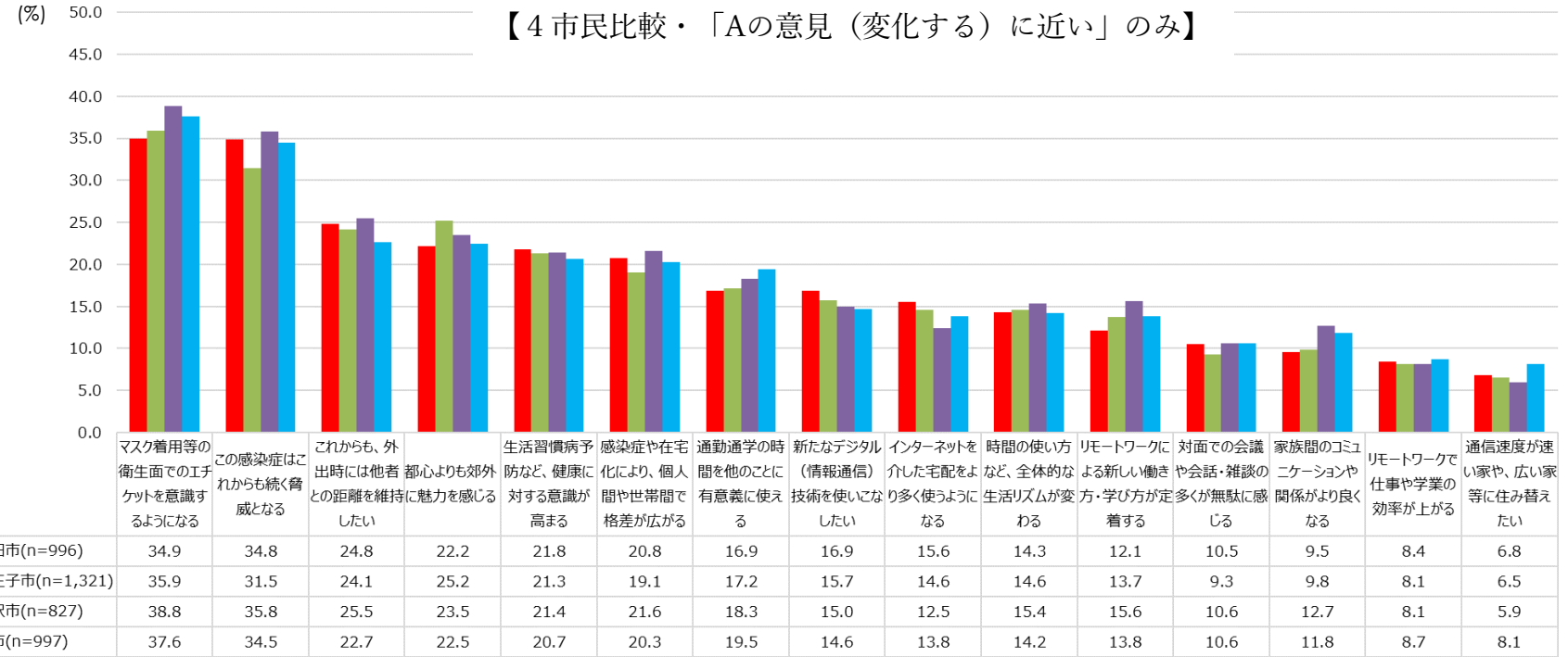


7. 新型コロナウイルス感染症による意識変化 ② 4 市民比較・Aの意見（変化する）ベース

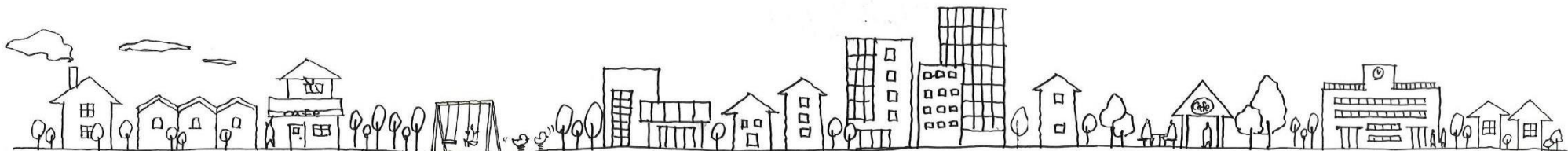
新型コロナウイルス感染症による社会変化に対する意識をみると、町田市を含む4市民はほぼ一致している。

- 新型コロナウイルスによる感染症（Covid-19）による社会変化に対する意識（「Aの意見に近い」のみ）をみると、町田市民と他の3市民の間で顕著な差異はなく、その傾向はほぼ一致している。

Q16 今年の前半は、新型コロナウイルスによる感染症（Covid-19）が、日本社会に大きな影響をもたらしました。次にあげるAおよびBの意見について、あなたはどちらの意見に近いですか。（ひとつずつ）



※ 上図では、町田市民の「Aに近い」の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。

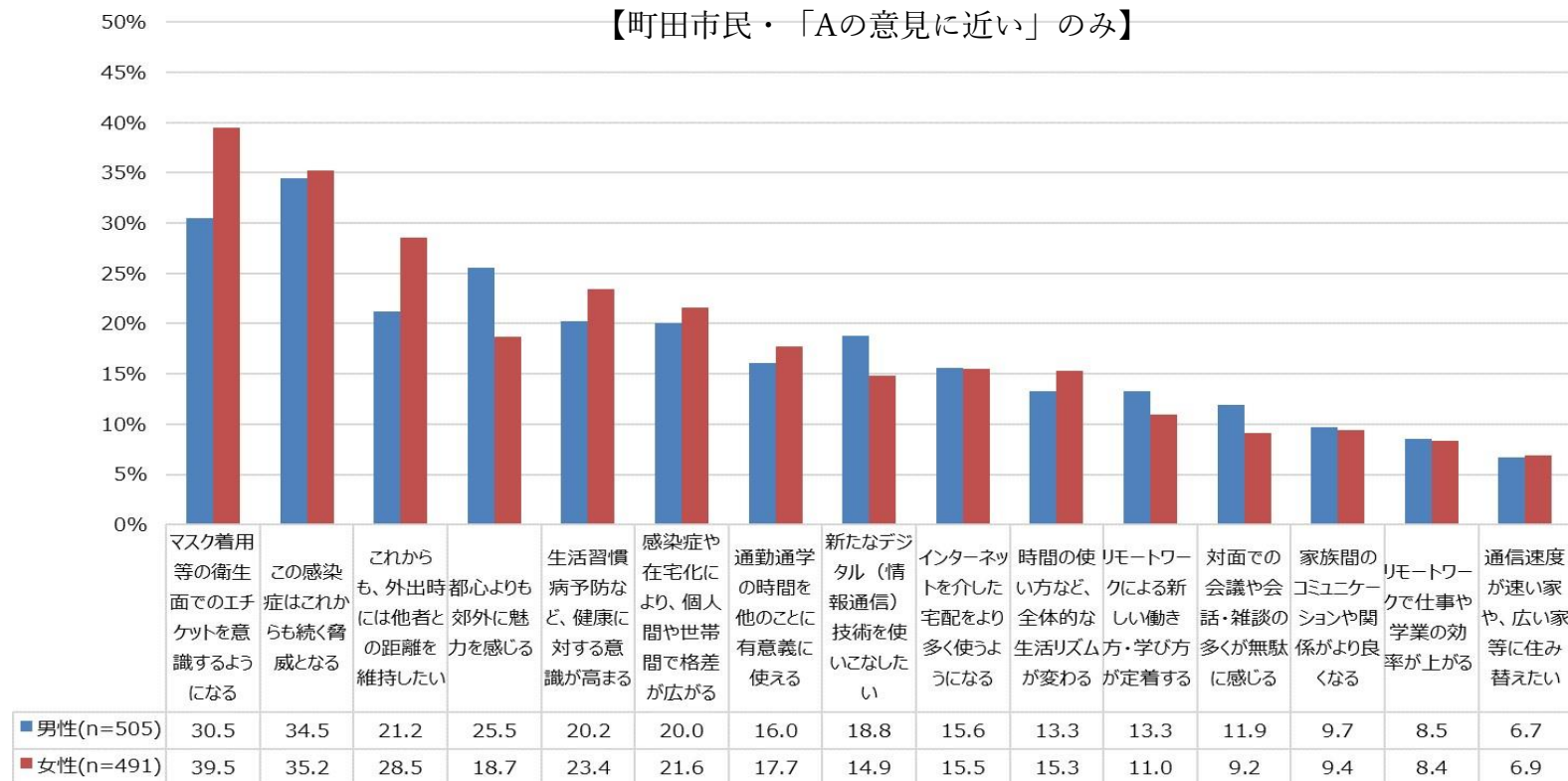


7. 新型コロナウイルス感染症による意識変化 ③町田市民のみ・属性分析（性別）・Aの意見（変化する）ベース

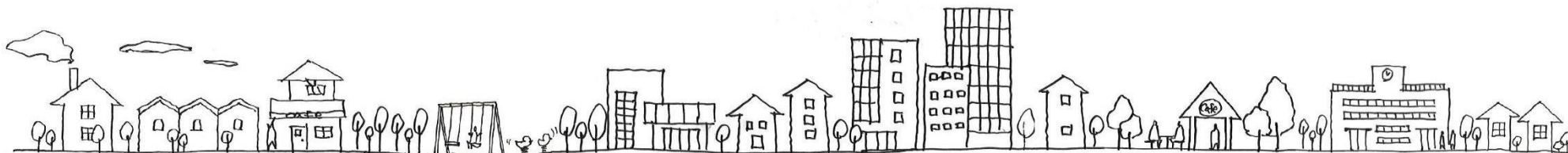
町田市民のうち、エチケット意識やソーシャルディスタンスについては女性の方が、都心よりも郊外に魅力を感じるのは男性の方が多い。

- 町田市民における新型コロナウイルス感染症による社会変化に対する意識（「Aの意見に近い」のみ）について性別でみると、「マスク着用等の衛生面でのエチケットを意識するようになる」および「これからも外出時には他者との距離を維持したい」については、男性よりも女性の方が強く肯定する人の割合が高い。
- 反対に、「都心よりも郊外に魅力を感じる」という意見については、女性よりも男性の方が強く肯定している。
- その他の意見については、性差はみられない。

Q16 今年の前半は、新型コロナウイルスによる感染症（Covid-19）が、日本社会に大きな影響をもたらしました。次にあげるAおよびBの意見について、あなたはどちらの意見に近いですか。（ひとつずつ）



※ 上図では、町田市民の「Aに近い」の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。

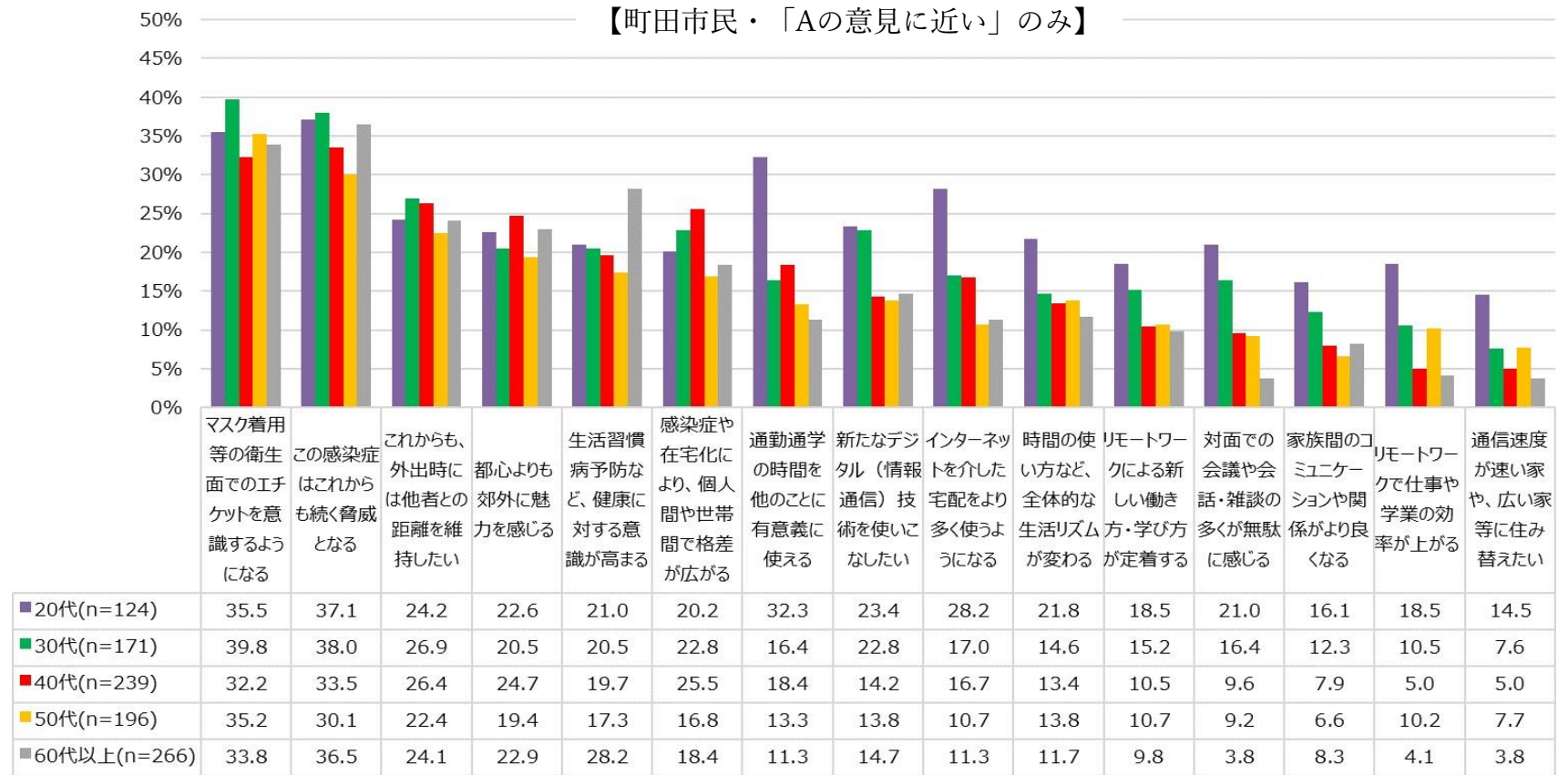


7. 新型コロナウイルス感染症による意識変化 ③町田市民のみ・属性分析（年代別）・Aの意見（変化する）ベース

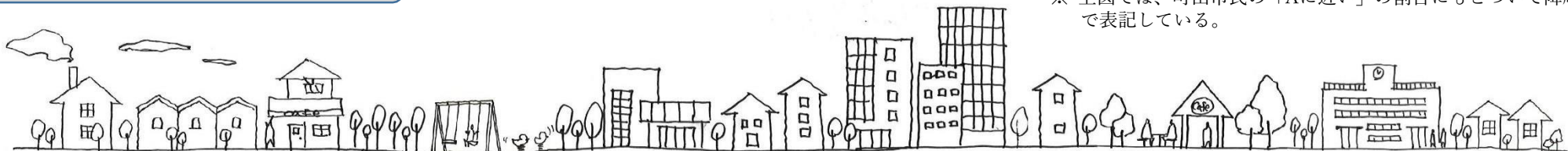
新型コロナウイルス感染症により、多くの点で若年層ほど社会生活の変化が生じると考えている。

- 町田市民における新型コロナウイルス感染症による社会変化に対する意識（「A（社会変化する）の意見に近い」のみ）では、全体的に年代により差異がみられる。
- 「通勤通学の時間を他のことに有意義に使える」をはじめ、「インターネットを介した宅配をより多く使うようになる」「対面での会議や会話・雑談の多くが無駄に感じる」「リモートワークで仕事や学業の効率が上がる」「通信速度が速い家や広い家等に住み替えたい」「時間の使い方など、全体的な生活リズムが変わる」という意見については、若年層ほど肯定している。
- 反対に、「生活習慣病予防など、健康に対する意識が高まる」という意見については、60代以上が50代以下よりも肯定している。
- なお、「この感染症はこれからも続く脅威になる」という意見においては、30代以下と60代以上が40～50代よりも肯定している。

Q16 今年の前半は、新型コロナウイルスによる感染症（Covid-19）が、日本社会に大きな影響をもたらしました。次にあげるAおよびBの意見について、あなたはどちらの意見に近いですか。（ひとつずつ）



※ 上図では、町田市民の「Aに近い」の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。



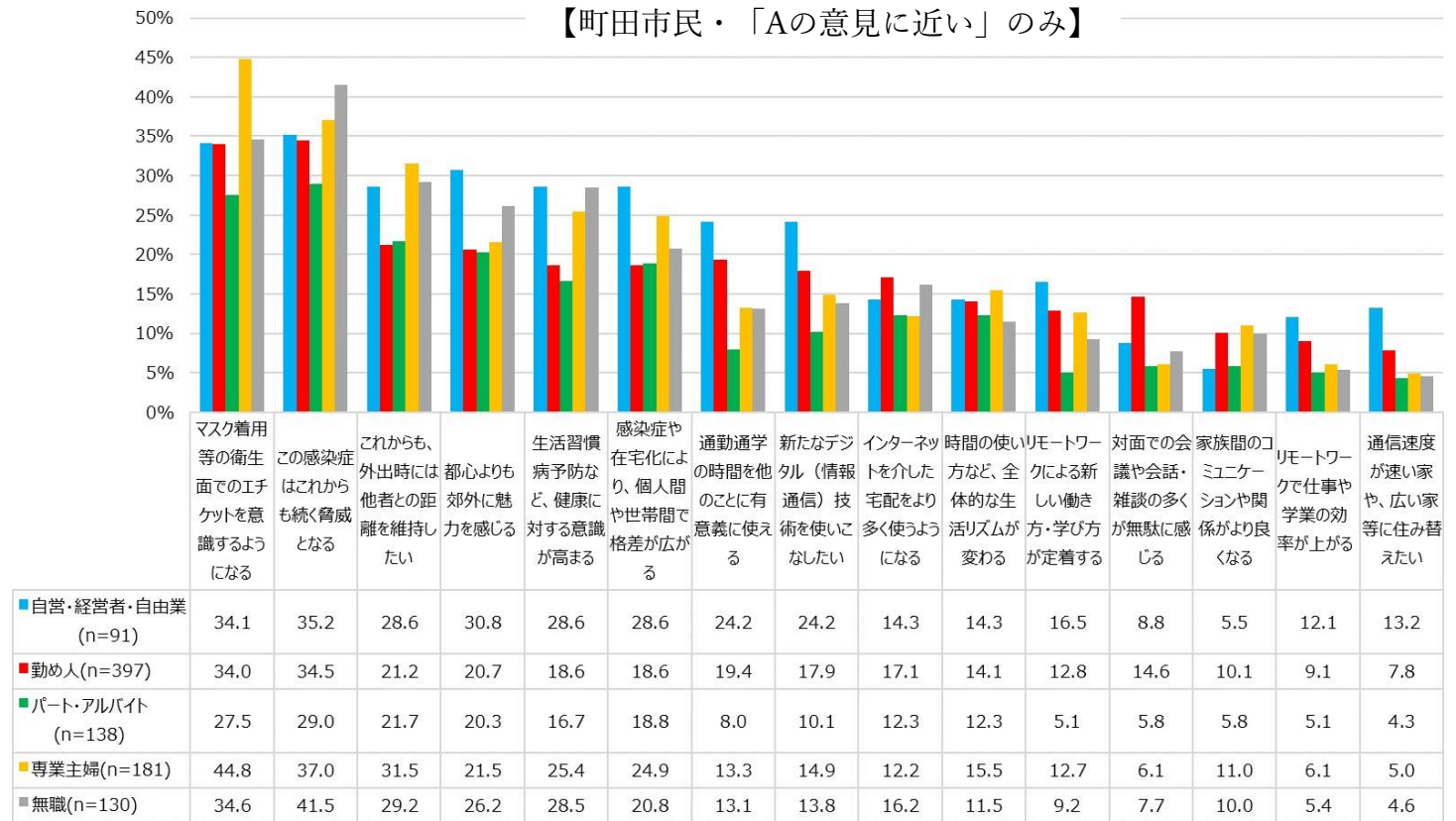
7. 新型コロナウイルス感染症による意識変化

③町田市民のみ・属性分析（職業別）・Aの意見（変化する）ベース

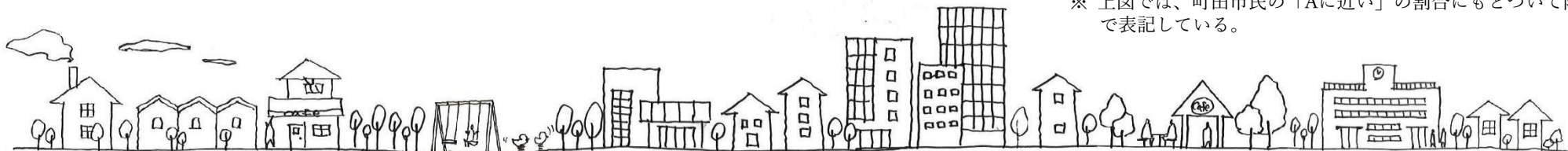
職業により、新型コロナウイルス感染症による社会変化に対する意識は異なる。

- 町田市民における新型コロナウイルス感染症による社会変化に対する意識（「Aの意見に近い」のみ）について職業別（サンプルサイズの小さい学生を除く）にみると、職業により顕著な差異がみられる。
- 「マスク着用等の衛生面でのエチケットを意識するようになる」という意見については、専業主婦が他の職業よりも強く肯定している。
- 「この感染症はこれからも続く脅威となる」という意見については、無職の人が特に肯定している。
- 「生活習慣病予防など健康に対する意識が高まる」「感染症や在宅化により、個人間や世帯間で格差が広がる」「通勤通学の時間を他のことに有効に使える」「新たなデジタル技術を使いこなしたい」については、特に自営・経営者・自由業の人が強く肯定している。
- なお、「リモートワークによる新しい働き方・学び方が定着する」については、自営・経営者・自由業と勤め人の間では顕著な差異はみられないが、パート・アルバイトの人との間では差異がみられる。
- 自営・経営者・自由業と勤め人のおよそ1割が、「リモートワークで仕事や学業の効率が上がる」という変化を肯定的にとらえている。

Q16 今年の前半は、新型コロナウイルスによる感染症（Covid-19）が、日本社会に大きな影響をもたらしました。次にあげるAおよびBの意見について、あなたはどちらの意見に近いですか。（ひとつずつ）



※ 上図では、サンプルサイズが小さいことから「学生（n=32）」を省略している。
 ※ 上図では、町田市民の「Aに近い」の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。



7. 新型コロナウイルス感染症による意識変化

④町田市民のみ・ライフスタイル別分析・Aの意見（変化する）ベース

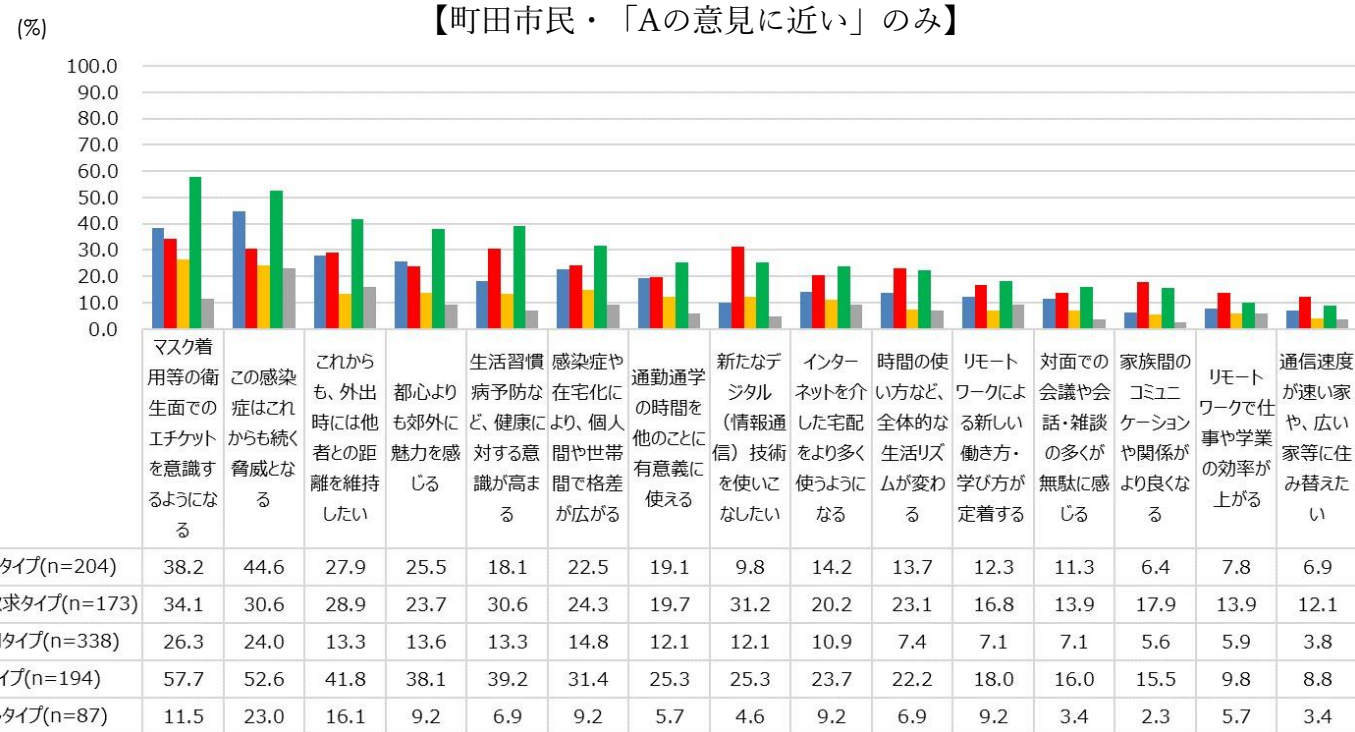
町田市民の中で「自己満足タイプ」に類する人は、特に新型コロナウイルス感染症による社会変化を意識している。

- 町田市民における生活価値観ベースのライフスタイル別にみると、「自己満足タイプ」は概ね新型コロナウイルス感染症がもたらす社会変化（「Aの意見に近い」のみ）を多面的に肯定している。特に、「マスク着用等の衛生面でのエチケットを意識するようになる」「この感染症はこれからも続く脅威となる」については、「自己満足タイプ」の半数以上の人々が強く肯定している。
- これらの他に、「これからも、外出時には他者との距離を維持したい」「都心よりも郊外に魅力を感じる」「生活習慣病予防など、健康に対する意識が高まる」についても、「自己満足タイプ」は他のライフスタイルよりも社会変化を肯定している。
- なお、「この感染症はこれからも続く脅威となる」という社会変化については、「自己満足タイプ」に次いで「身の丈安定タイプ」が強く肯定している。

■生活価値観によるタイプ分類

- 「身の丈安定タイプ」：社会貢献も考えず、周りの評判を気にせず、ただ安定志向なタイプ
- 「自己超越欲求タイプ」：周りの評判を強く気にしながら、社会貢献を意識する一方、とにかく自分の可能性を高めたい、というタイプ
- 「消極的同調タイプ」：突出した特徴はないものの、自身の安定さはさほど求めず、また周りの評判も若干気にしているタイプ
- 「自己満足タイプ」：とにかく自身の暮らしに安定を求めている。その中で、周りの評判を気にせず、ふだんから費用対効果を求めたり、自分の可能性を試しているタイプ。
- 「その日暮らしタイプ」：日々の暮らしに安定を求めず、自分の可能性を試すわけでもなく、費用対効果を意識するわけでもなく、社会貢献の意欲もなく、総じて日々を利別に暮らすタイプ

Q16 今年の前半は、新型コロナウイルスによる感染症（Covid-19）が、日本社会に大きな影響をもたらしました。次にあげるAおよびBの意見について、あなたはどちらの意見に近いですか。（ひとつずつ）



※ 上図では、4市民合計の「Aに近い」の割合にもとづいて降順（数値の大きい順）で表記している。

